

令和元年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



もくじ

1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ 1
2. 地域医療支援センター長/
地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授あいさつ 2
3. スタッフ一覧 3

2 熊本県地域医療支援機構 (熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要 4
2. 年間活動実績 4
3. 活動報告
 - I. 県内における医師不足の状況などの把握・分析 5
 - II. 医師不足医療機関の支援 7
 - III. 医師が循環して勤務できるシステムの構築 8
 - IV. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師の
キャリア形成支援 10
 - V. 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応 12
 - VI. 県内医療関係機関との協力関係の構築 15
 - VII. 熊本県地域医療支援機構講演会 16
 - VIII. 女性医師キャリア支援 17
4. そのほか 23



3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要	25
2. 年間活動実績	25
3. 活動報告	
I. 地域医療支援（診療支援）	26
II. 調査・研究	26
III. 教育活動	27
● 卒前教育（カリキュラム内教育）	27
● 卒後教育（初期臨床研修・専門医研修）	32
IV. 指導医養成	37
V. 講演会	38
VI. その他	38

4 教育拠点

<玉名教育拠点>

1. 活動概要	39
2. 年間活動実績	39
3. 活動報告	
I. 教育活動	40
II. 診療	43
III. 年間診療報告	43



<天草教育拠点>

1. 活動概要	44
2. 年間活動実績	44
3. 活動報告	
I. 教育活動	45
II. 診療	46
III. 年間診療報告	46

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ	
I. 概要	48
II. 活動報告	48
2. 令和元年度夏季学生地域医療特別実習	
I. 概要	51
II. 実習の目標と狙い	51
III. 2日間の日程	52
3. 令和元年度卒業生	53

6 業績

1. 地域医療支援センター	57
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座	60
3. 玉名教育拠点	61

7 おわりに

1. 教員から	62
2. 事務から	66
3. あとがき	68

1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学病院 病院長

谷原 秀信

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療・総合診療実践学寄附講座の取り組みに、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、令和元年度の活動報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

今年度は、平成25年12月に設立された熊本県地域医療支援機構が、6年目を迎えました。また地域医療・総合診療寄附講座では、今年度から新たに天草教育拠点を設置し、それも含めさらに3年間の寄附講座がスタートいたしました。

更に、国の医療法、医師法の改正に基づき、医師確保に関する会議体は「地域医療対策協議会」に一本化され、それに伴い地域医療支援機構の組織も整理されたところです。

ところで、本年度は喜ばしいことがありました。その一つは地域医療支援センターの責任者である松井先生はじめ3名のメンバーが熊本大学教育活動表彰を受賞されたことです。更に同センター所属の後藤先生が、「おイネ賞」の全国奨励賞を受賞されたことです。この事は、これまでの努力が各方面から評価され、取り組みの成果が認められたことであり大変ありがたく思っております。

こういった取り組みにも拘わらず、医師の地域偏在は依然として大きな問題であります。厚生労働省から示された医師偏在指標等では、本県は医師多数県とされています。しかし、地域の実情を踏まえれば、医師少数地域は多くあり、医師偏在対策を進めていくことは本県の重要課題であります。

その状況を踏まえ、今年度、熊本県医師確保計画が策定されました。この計画に基づき地域医療を志す医学生や医師の養成、熊本県地域医療連携ネットワークの構築などを通じ、実効的な地域医療対策を進めていく必要があります。また、各診療分野のキャリア形成プログラムが策定され、特に総合診療専門医については令和5（2023）年度までの医師確保計画期間内に20名の総合診療専門研修プログラム専攻医を確保する目標が建てられました。総合診療専門医の養成を担う天草教育拠点や玉名教育拠点等の活用をはじめ、目標達成に向けた取り組みが今後の課題となっております。

このような中であって、熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者などの関係諸団体と連携を一層強化し、熊本の県内各地で望ましい地域医療が提供されるよう努力してまいりたいと存じます。今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2. 地域医療支援センター長/地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授あいさつ



熊本大学病院 地域医療支援センター センター長

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授

松井邦彦

令和元年度の報告書をお送りいたします。いつも年度末のこの時期に一年間を振り返り、報告書にご挨拶の文章を書かせていただいています。例年と同じように忙しい一年でしたが、特に本年度は予定の変更を余儀なくされることが多々ありました。それぞれの場面では、検討を重ねた上での判断でしたが、関係の皆様方には大変なご迷惑をおかけすることになりました。

例年二泊三日で行ってきた夏の特別地域医療実習は、大型台風接近のために一泊二日に変更しました。幸いにも熊本に大きな被害はなく、予定通りに行っても問題はありませんでした。この原稿を書いている令和二年三月初めの時点では、新型コロナウイルス肺炎の流行を防ぐために、様々な行事等が中止になっています。私達が関係する公の行事として、熊本県地域医療支援機構の理事会や地域医療対策協議会は、いずれも中止になりました。

安全を守り被害を最小限にするため、今後を予想し先んじた対応が求められるのは当然です。しかし、中止や変更の判断を下すことは容易ではありません。結果として、過剰な対応であったと後に批判されることになったとしても、やむを得ないと思います。むしろそれは望ましい結果を迎えることが出来たと、喜ぶべきでしょう。

熊本県医師修学資金貸与制度について、令和二年三月の時点で全対象者は77人、そのうち医師となった方々は（研修医を含め）32人となりました。第一期生の先生方は、本年度で卒後5年目が終わります。地域の施設で活躍される方々が増え、皆様方のご期待に、ゆっくりですが適えることが出来つつあると思います。その一方で、対象者各人の将来を見据え、専門職である医師としてのキャリア支援も、ますます重要になってきます。なかなか容易ではありませんが、精一杯支援していくことが我々の使命です。

最後に当寄附講座/地域医療支援センターの教員、事務スタッフの中には、本年度をもって去られる方々がいらっしゃいます。これまで一緒に働きご指導をいただいた感謝と共に、ご健康と今後のご活躍をお祈りしたいと思います。また大学スタッフの皆様方、県庁医療政策課の皆様方にも感謝を申し上げ、来年度も引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

3. スタッフ一覧

◆ 熊本県地域医療支援機構（熊本大学病院 地域医療支援センター）

松井 邦彦 特任教授（センター長）
総合診療科

後藤 理英子 特任助教
糖尿病・代謝内分泌内科

谷口 純一 特任准教授（副センター長）
総合診療科

高柳 宏史 特任助教
総合診療科

古賀 義規 客員研究員
（御所浦診療所所長）

片岡 恵一郎 客員研究員
小国公立病院副院長

坂田 正充
地域医療支援コーディネーター

中川 実咲 事務補佐員

松岡 大智
地域医療支援コーディネーター

横手 友紀子 事務補佐員

高塚 貴子
女性医師復職支援コーディネーター

大西 留美 事務補佐員

◆ 熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

松井 邦彦 特任教授
総合診療科

久保 清美 事務補佐員

佐土原 道人 特任助教
総合診療科

山並 美緒 事務補佐員

前田 幸佑 特任助教
総合診療科

山口 香 事務補佐員

◆ 玉名教育拠点（公立玉名中央病院）

田宮 貞宏 熊本大学非常勤講師
総合診療科

小山 耕太 熊本大学非常勤講師
総合診療科

◆ 専攻医

松田 圭史 後期研修医3年目

北村 泰斗 後期研修医2年目

久保崎 順子 後期研修医2年目

空田 健一 後期研修医2年目

永田 洋介 後期研修医2年目

早川 香菜美 後期研修医2年目

平賀 円 後期研修医2年目

◆ 天草教育拠点（天草地域医療センター）

高杉 香志也 特任助教
総合診療科

鶴田 真三 特任助教
総合診療科



熊本県地域医療支援機構

(熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要

熊本県地域医療支援機構では、熊本県と、熊本県から機構業務の一部を委託された熊本大学病院が協力して機構の運営を行っています。当機構では県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足医療機関の医師確保の支援等を行っています。

今年度は、平成25年12月に設立された熊本県地域医療支援機構が、6年目を迎えました。また地域医療・総合診療寄附講座では、今年度から新たに天草教育拠点を設置し、それも含めさらに3年間の寄附講座がスタートいたしました。

このような中、地域医療・総合診療実践学寄附講座の新しい教育拠点の天草設置やキャリア形成プログラムの周知に努めました。さらに学生に対して地域医療ゼミや地域医療を体験する機会の提供、育児等で家庭に入った女性医師の復職を支援するためのメンター制度やお留守番医師制度の普及・啓発にも努めました。機構講演会では、地域社会と連携した総合診療医の育成について御講演いただきました。

また、これまでの取り組みが評価され、地域医療支援センターのメンバーが熊本大学教育活動表彰や「お伊ネ賞」の全国奨励賞の受賞もありました。

【主な取り組み】

- ① 県内における医師不足の状況等の把握・分析
- ② 医師不足医療機関の支援
- ③ 都市部と地域の医療機関が連携し、医師が循環して勤務できるシステムの構築
- ④ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援
- ⑤ 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応
- ⑥ 県内医療関係機関との協力関係の構築
- ⑦ 熊本県地域医療支援機構講演会
- ⑧ 女性医師キャリア支援

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	10	地域医療支援機構担当者連絡会
	13	天草教育拠点開所式
5	8	医師就学資金貸与学生面談
	13	医師就学資金貸与学生面談
	14	キャリア支援セミナー
	15	メンター連絡会議
	15	医師就学資金貸与学生面談
	20	医師就学資金貸与学生面談
	22	地域医療支援機構担当者連絡会
	22	医師就学資金貸与学生面談
6	27	医師就学資金貸与学生面談
	29	医師就学資金貸与学生面談
	5	地域医療支援機構担当者連絡会
	28	肥後ふるさと医学生実習支援事業広報
7	2	地域医療対策協議会
	10	地域医療支援機構担当者連絡会
8	2	医師就学資金貸与医師面談
	5	ネットワーク拠点病院長意見交換会
	9	オープンキャンパス
	16-17	夏季地域医療特別実習
9	28	医師就学資金貸与学生面談
	4	地域医療支援機構担当者連絡会
10	1	地域医療対策協議会
	9	地域医療支援機構担当者連絡会
11	13	医学生・研修医をサポートする会セミナー
	25	地域医療支援機構講演会
	26-27	医師修学資金貸与医師管理システム調査
12	18	地域医療支援機構担当者連絡会
	24	地域医療対策協議会
1	29	地域医療支援機構担当者連絡会
	7	クローバーセミナー
2	19	地域医療支援機構担当者連絡会
	18	地域医療支援機構担当者連絡会
3	25	熊本県副知事との面談（予定）

3. 活動報告

Ⅰ 県内における医師不足の状況などの把握・分析

◆ 国が新たに定める医師偏在指標等を踏まえ、県内の二次医療圏及び診療科ごとの医師不足状況等の分析

平成29年度に実施した医師確保に関する全医療機関調査をもとに、施設規模ごと（病院：200床以上・200床未満、診療所：有床・無床）に地域別、診療科別に勤務医師数（常勤医師数、非常勤医師数）、現在の求人の状況、令和5年度における必要医師数、地域別の1日平均外来患者数、1日平均入院患者数について分析を行いました。

また、医師確保計画策定の検討において必要となる県内の医療施設に従事する医師数の算定について、対象者が特定され地域の一般住民がほとんど利用することない特定の医療機関の医師数を除外することとなりました。これを踏まえて、県内全医療機関を検証して、除外の考え方を整理し、水俣病や重度心身障害など特定の疾患を対象として診療を行う医療機関に勤務する医師数を除外することにつなげました。

現在は県において策定される医師確保計画がより地域の実情に近いデータを踏まえたものとなるような、分析を心がけているところです。

◆ 熊本県医師就学資金貸与条例の知事指定病院等の調査

1 知事指定病院等の状況調査実施要領

【調査目的】

熊本県医師修学資金貸与医師については、「熊本県医師修学資金貸与医師の勤務等に関する要綱」第2条に規定する知事が指定する病院及び診療所（指定病院等）に一定期間勤務することになります。またその際、貸与医師は同要綱第3条及び第4条に定められた指定病院等にローテーションに基づき勤務します。

また、熊本県医師修学資金貸与医師については、本人の希望を踏まえ、キャリア形成を支援するとともに上記ルールに沿った勤務先を協議し、大学病院各診療科や関係医療機関と調整を行うことになっています。

そのため、勤務先となる指定病院等がどのような状況か、機構としても承知しておく必要があります。また、本人が勤務する医療機関の選択における判断に資するためにも情報を把握しておく必要もあります。

そこで、前回（平成30年10月）知事指定病院である36病院の医師不足の状況、教育指導体制、待遇等について調査を行いました。今回はそのデータを更新するため、調査を行うものです。

【実施主体】

熊本県地域医療支援機構

【調査対象及び調査方法】

対象：知事指定病院（31病院）、知事指定診療所（4診療所）

方法：前回の調査票配布し朱書訂正

【調査内容】

病院の医師不足状況、待遇、労働管理・福利厚生環境、教育指導体制等

【調査スケジュール】

- 11月 調査票発送
- 12月 取りまとめ、調査票分析
- 1月以降 対象者への情報提供

2 調査結果 (平成30年度調査との比較)

(1) 医師の充足状況について

①「かなり不足している」との回答した病院が平成30年度調査では14件から今回11件に減少したが、どちらかというところ不足しているが10件から17件と大幅に増加した。一方、充足しているとする施設は減少し、依然として医師不足と感じている病院が多数である。

(病院数)	R1年度	H30年度	H28年度
1.十分充足している	1	0	0
2.どちらかというところ充足している	3	6	6
3.どちらともいえない	3	5	5
4.どちらかというところ不足している	17	10	11
5.かなり不足している	11	14	13
合計	35	35	35

②診療科毎では、総合診療科、外科、神経内科、小児科、泌尿器科、産科で不足医師数の増加がある一方、内科、消化器科、救急救命で、不足医師数の減少がみられた。皮膚科、婦人科については、医師不足が解消された状態になった。

不足人数	R1年度	H30年度	H28年度	不足人数	R1年度	H30年度	H28年度
外科	12名 ↓	9名 ↓	6名	総合診療科	22名 ↓	17名 ↑	21名
眼科	4名 ↓	4名 ↓	2名	内科	12名 ↑	14名 ↑	17名
皮膚科	0名 ↑	1名 ↑	4名	神経内科	12名 ↓	10名 ↓	8名
泌尿器科	5名 ↓	3名 ↑	6名	消化器科	13名 ↑	14名 ↓	11名
産科	5名 ↓	4名 ↑	7名	小児科	12名 ↓	11名 ↓	9名
婦人科	0名 ↑	4名 ↓	2名	救急救命科	6名 ↑	10名 ↓	5名

③常勤、非常勤医師の関係では、内科で常勤医師、非常勤医師ともに減少。外科については、常勤医、非常勤医師がともに増加している。脳神経外科は常勤医が増加する一方非常勤医は減少している。

人数	内科			外科			脳神経外科		
	R1年度	30年度	28年度	R1年度	30年度	28年度	R1年度	30年度	28年度
常勤	30名 ↑	46名 ↓	52名	79名 ↓	75名 ↑	82名	18名 ↓	17名 ↓	14名
非常勤	10.7名 ↑	13.8名 ↓	0.53名	4.99名 ↓	4.6名 ↓	1.8名	0.54名 ↑	0.8名 ↑	5.4名

(2) 労働環境

①当直体制について、宿直、日直体制は、「すべて常勤医で対応している」病院が減少し、「応援を依頼している」病院が増加している。

病院数		R1年度	H30年度	H28年度
宿直	常勤医で対応	8	8	11
	応援を依頼	21	20	17
日直	常勤医で対応	6	7	10
	応援を依頼	20	17	15

②救急患者の受入れについて、「1日の平均救急外来患者数」は若干減少したものの、「救急車の年間受け入れ台数」は、898台が今回927台と大きく増加している。

- ③院内病児保育制度について、昨年度の6件から変わらないが、学童保育の実施、勤務における女性医師への配慮についてさらなる改善がみられる。
- ④Wi-Fi接続環境について、院内が21件から23件へ、住宅が7件から8件へと整備が進んできている。

(3) 待遇・福利厚生

- ①医師の平均総収入は、卒後3年目、6年目ともに増加している。
- ②取得可能な休暇・休職について大きな変化はないが、介護休業制度が増加している。
- ③女性医師の妊娠期間中・育休終了後の当直免除、時間外免除、短時間勤務制度等について改善がみられる。

(4) 教育指導体制

- ①学会・研修会参加を勤務扱いする病院は、22件から23件へ、出張に係る旅費の補助は、30件から31件に増加した。
- ②医学生対象の実習受け入れ状況について、22件から40件に増加し、年間受け入れ人数も235名から424名へと大幅に増加した。

(5) 診療所

診療所については4カ所とも大きな変化はないが、1か所で1日の平均患者数が増加したが、2カ所については減少している。

II 医師不足医療機関の支援

◆ 診療・診療支援

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外においては、各教員が複数の地域の医療施設にて、下表のとおり非常勤での診療支援活動を行いました。

➤ 大学病院総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	前田
			谷口 (2019.9～ 2020.3 奇数週)	

➤ 学外診療支援

松井	2019.4～2020.3 公立玉名中央病院 (週1回)
谷口	2019.4～2020.3 公立玉名中央病院 (奇数週、週1回)
	2019.4～2020.3 上天草総合病院 (偶数週、週1回)
高柳	2019.4～2020.3 小国公立病院 (週1回)
	2019.4～2020.3 御所浦診療所 (週1回)

◆ 医師が循環して勤務できるシステムの構築

◆ 熊本市内と地域の医療機関が連携して、医師が都市部と地域を循環して勤務出来るシステムの構築に向けた取組状況

➢ 地域医療・総合診療実践学寄附講座の新たな教育拠点の設置

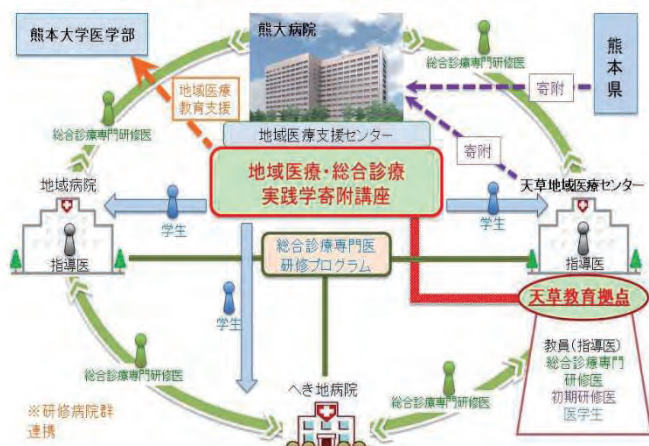
平成30年4月から5月にかけて、県内の公的病院に対し、教育拠点の設置の意向調査を実施し、そのうえで、天草地域医療センターを選定しました。平成31年4月13日に開設式を実施し、地域医療・総合診療実践学寄附講座から派遣した教員2人が、地域での診療に従事するとともに、専攻医等の指導・育成の業務に従事しています。

(天草教育拠点のイメージ)

- ・ 大学→本渡に教員派遣・循環
- ・ 本渡で専門医・指導医を養成
→天草地域内に派遣



地域医療・総合診療実践学寄附講座及び天草教育拠点の役割/位置付け



◆ 遠隔診療・教育支援システム（テレビ会議システム、学習・診療支援オンラインツール等）の構築支援

1. テレビ会議システム

- 熊本県の総合診療専門医育成支援設備整備事業の計画に基づき、令和元年度は栖本病院、新和病院の2カ所にテレビ会議システムを配備するための支援・調整を行いました。また、天草教育拠点の開設に合わせ、県からの支援を受け天草地域医療センターにも設置されました。
- 2週間に1度Web合同カンファレンスをテレビ会議システムを利用して開催しました。
- 講演会やグラウンドラウンドの様子をテレビ会議システムで中継を行いました。

整備場所

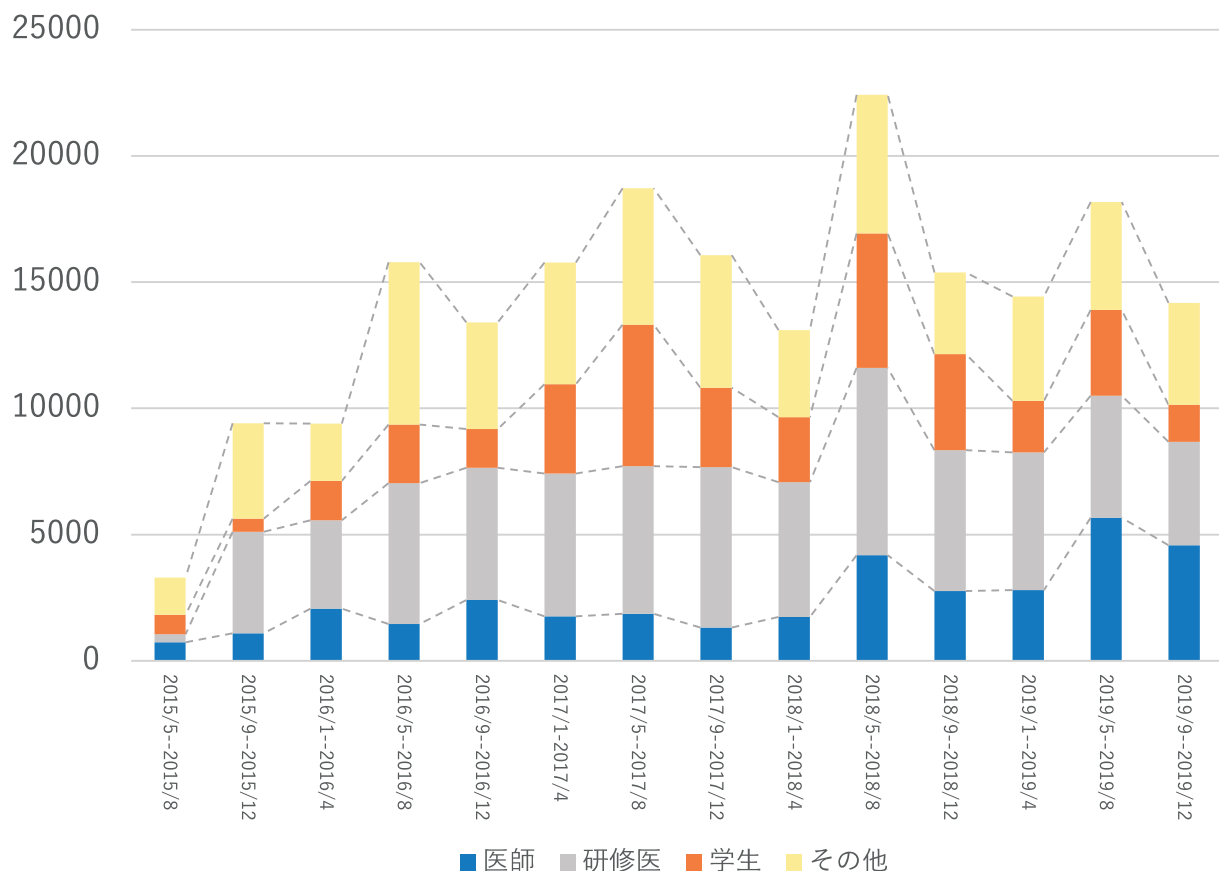
H28年度	<ul style="list-style-type: none"> • 御所浦診療所 • 湯島へき地診療所 • そよう病院
H29年度	<ul style="list-style-type: none"> • 小国公立病院 • 公立多良木病院 • 上天草総合病院
H30年度	<ul style="list-style-type: none"> • 河浦病院 • 阿蘇医療センター • 人吉医療センター
R1年度	<ul style="list-style-type: none"> • 栖本病院 • 新和病院

2. 学習・診療支援オンラインツール

令和元年度は、「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するためのIDパスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生、総合診療プログラム専攻医等10名に交付し、交付者は累計で169名になりました。

また、特別臨床実習（クリクラ）を受けた104名の学生に実習医療機関での「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供し活用を図りました。

利用状況（2015年3月に導入以来、4ヶ月毎に集計） ▼



IV 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

◆ 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師のキャリア形成支援について

1. 熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援制度の実施

- 「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。
- 地域枠医師のキャリア形成プログラムの作成に当たって、各診療科において専攻医が義務を果たしながらキャリア形成を図ることができるよう、県と協力して各医局との調整を行いました。また、キャリア形成プログラム周知のため、地域医療支援機構ホームページにキャリア形成プログラムを掲載するとともに貸与医師及び貸与学生全員にプログラムを郵送し、説明会（令和2年2月20日）を実施しました。

2. 熊本県医師修学資金貸与学生・医師の面談

修学資金貸与医師への面談を通して将来のキャリア形成について、今後の勤務先の選定等についてアドバイスをを行いました。

- 医師については卒後1～6年次医師等33名を対象として、令和元年8月～12月の間で、現在のキャリアと今後のキャリア形成をどうするのか、また、来年度の勤務先をどこにするのか等についての面談を実施しました。
- 学生については1年生～6年生44名を対象として、平成31年4月～令和元年5月の間で、現在の学業の課題や生活上の問題等について面談を実施しました。6年生にはさらに初期研修の希望先病院等について面談しました。

3. 岐阜県事例調査

令和元年11月26日～27日、岐阜県医師育成・確保コンソーシアム事務局（岐阜大学医学部附属地域医療医学センター内）を県医療政策課と一緒に訪問し、岐阜県の医師修学資金制度の運用状況、キャリア形成支援の取組状況、面談の実施状況、データ管理の在り方等について調査し、今後の本県の制度運営について、改善の参考としました。特にこの調査を踏まえ、修学資金貸与医師の義務年限達成状況等のデータ管理システムについて整備しました。

4. 卒業生の知事との面談

令和2年3月25日10名の卒業生が副知事と面談し、卒業生からは地域医療に携わる決意が述べられ、副知事からは熊本県の未来を担う医師への激励の言葉をいただきました。

◆ 熊本県医師修学資金貸与医師の専門研修プログラム修了後における配置ルールづくり

- 貸与医師の専攻診療分野次第では配置ルール第2グループに専攻した診療科がない場合や、資格を更新する場合の手術件数等のクリアが難しいことなどから、今後の取り扱いをどうするか検討を行いました。
- 貸与医師が選択した全ての診療科において、でき得る限り早期に義務年限の償還が果たせることを基本とした配置ルール作りを進めていくこととしています。

◆ 初期臨床研修及び新専門医制度への対応

1. 初期臨床研修関係

医師修学資金貸与学生のマッチングについてアドバイスをするなど支援を行い、来年度から臨床研修予定の10名全員が県内の研修病院にマッチングしました。また、令和元年6月9日「熊本大学病院群卒後臨床研修プログラム説明会」に参加し、総合診療科を目指す学生の掘り起こしに努めました。

2. 新専門医制度

地域医療支援機構理事長の熊本大学病院長及び理事の熊本大学病院地域医療支援センター長が地域医療対策協議会に委員として参加し、医師の地域偏在の解消に向けて、地域枠医師のキャリア形成について、義務年限の償還との両立の必要性、勤務先の地域医療機関における教育・育成の充実の必要性について各医療機関に理解を求めました。

◆ 総合診療専門医及び指導医の養成、確保

1. 日本専門医機構への総合診療専門医研修プログラム認定申請

令和元年7月5日付で、同機構に「熊本大学病院総合診療専門研修プログラム」の変更申請を行い、同年10月に承認されました。県内では熊本大学病院の他、5医療機関（熊本赤十字病院、くわみず病院、済生会熊本病院、国立医療センター、人吉医療センター）でプログラムが承認されています。

2. 総合診療専門研修プログラム責任者協議会への参加

令和元年5月と7月に開催された日本プライマリ・ケア連合学会主催の責任者協議会に参加しました。

3. 総合診療専門医研修プログラムの周知

県内6つのプログラムについて、地域医療支援機構ホームページに掲載し、その周知を図りました。また、令和元年5月18日、19日に開催された日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（京都市で開催）で、総合診療専門医研修プログラムの紹介をしました。さらに、熊本大学病院専門研修説明会（6月9日）での周知、熊大総診プログラムの周知用チラシを臨床研修医対象に配布しました。

11月15日には、熊本大学病院所属の臨床研修医を対象に総合診療専門研修プログラム説明会を開催しました。

その他、6月の「第6回九州山口家庭医療・総合診療セミナー」、11月の「医学生・研修医等をサポートする会」、「地域医療支援機構講演会」において、熊大総診プログラムパンフレット（周知啓発用のチラシ）を配布し、周知に努めました。

4. 総合診療専門医の熊本県内プログラムへの登録

県内6つの総合診療専門医研修プログラムのうち、熊本大学病院に1名が登録されました。ちなみに、2019年度に他病院のプログラムで研修を開始した専攻医1人が、熊本大学病院の総合診療専門研修プログラムに移籍しました。

◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンの発行をしました。

- ① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取り組みを広く周知することで理解と協力を求める
- ② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す
- ③ 熊本県内で地域医療に携わる医師及び医療関係者に対し、取り組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る

<対象>

- ・熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- ・県内自治体（市町村）の医療担当部署、熊本県及び郡市医師会
- ・熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- ・熊本出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等
- ・講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者

<発信状況>

2019年4月から約740名の登録者に対し9回、地域医療支援機構の取り組みなどを発信しました。

2019/4/17	Vol.41	キャリア支援セミナー 開催のお知らせ
2019/5/10	Vol.42	肥後ふるさと医学生実習支援事業 開始のお知らせ
2019/9/2	Vol.43	第16回総合診療グランドラウンド 開催のお知らせ
2019/10/15	Vol.44	「医学生・研修医をサポートするための会」開催のお知らせ
2019/10/23	Vol.45	熊本県地域医療支援機構講演会 開催のお知らせ
2019/12/26	Vol.46	「熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー」開催のお知らせ。

◆ 熊本県地域臨床実習支援制度の実施

県外にいる熊本県出身の医学生や、将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につながることを目的として地域医療臨床実習支援制度（肥後ふるさと実習支援事業）を実施し、自治医大や、県外枠の地域枠学生、医学部進学者の多い県内の高校に対して制度を周知し、参加を促しました。しかしながら、本年度は1名のみでの参加でした。

【募集対象者・募集人数】

募集対象者：熊本県外の大学に在学する地域医療に関心を有する医学部学生

募集人数：5名以内

【事業実施期間】平成31年4月から令和2年2月まで

【実習期間及び実習内容】

実習期間：原則として1週間以内（最低でも2日以上）

実習内容：診療参加、診療見学等

【実習先】知事指定病院等のうち29の医療機関（表）

【実習結果報告】実習希望者は、実習終了後2週間以内に報告書を機構に提出

【事業の周知】機構は全国の医学系大学などに本事業の周知などを図る

◆ 客員研究員報告

■ 小国公立病院 副院長 片岡 恵一郎

2018年度より、松井先生と谷口先生のご厚意により客員研究員として、小国公立病院に勤務しながら、月に1回地域医療支援センターのミーティングに参加させていただいております。月に1回だけでも、大学でのミーティングで触れることのできる情報は、地域にどっぷり浸かっている日常とは異なった視点で地域医療を俯瞰的に見ることができ、自分にとっては大変貴重な時間となっております。

今年度、私は、第6回やぶ医者大賞という賞をいただきました。この賞は、兵庫県養父（やぶ）市が主催するもので、全国で地域医療に邁進している50歳以下の若手から2人が選ばれ表彰されるものです。私が小国に赴任してこの7年間の関わった事、特に、小国郷医療福祉あんしんネットワークで5年間行ってきた事業を中心に実績を書きため応募したところ、大変光栄な事に今年の大賞に選んでいただき、2019年8月24日に養父市で表彰を受け、記念講演までさせていただきました。

よそ者として地域に入り込んで、地域医療に従事する者にとって、ローカルとグローバルの両者の視点をバランス良く取り入れる事はとても重要です。ローカルな課題をグローバルな視点で捉え、広く認知・評価される様な地域課題の解決方法を取ることが地域医療の質を上げていくものと信じ、日々、地域での医療とその課題解決に取り組んでいます。そして、その為に必要な、グローバルで俯瞰的な視点と視野を得るために、熊大の地域医療支援センターでの客員研究員の立場は大変貴重なものと実感しております。



■ 御所浦診療所 所長 古賀 義規

御所浦診療所は熊本県内で離島医療を経験できる数少ない診療所の1つであり、今年度も3週間のクリクラの医学生、1週間のECE3(早期臨床体験実習)医学生を受け入れました。私を含めてスタッフには刺激になり、日々の診療業務を振り返る良い機会になっております。患者様や地域の方々からの医学生の評判は総じて良く、医学生本人の資質だけでなく、大学での指導のおかげだと感じています。来年度には新たに総合診療専攻医の赴任も決まっており、家庭医療の教育・実践の質的向上を図っていきたくと思っています。



また今年度は産山村診療所や波野診療所にも訪問する機会をいただき、家庭医療が地域住民に望まれる医療との親和性が高いことを説明させていただきました。今後家庭医療を実践する医師が赴任した場合に、長期的視点に立っての県内公的診療所の連携の在り方などについて意見交換しました。

今後も、大学と連携しながら、より多くの医学生や研修医に離島・へき地での地域医療に理解を深めてもらい、地域医療・家庭医療にやりがいをもって取り組める人材育成の一助になりたいと思います。

◆ 県内医療関係機関との協力関係の構築

◆ 県内医療機関に対する助言などの支援、医療機関との連携、調整

1. 年間報告書を作成し、市町村・医療機関等に配布したり、機構リーフレットを関係者等に配布しました。
2. 地域臨床実習支援制度への協力を知事指定の病院に打診し、29病院からの協力を得ました。
3. 前回（平成30年10月）知事指定病院である35病院の医師不足の状況、教育指導体制、待遇等について調査を行いました。今回はそのデータを更新するため、再度調査を行いました。（P.5参照）

◆ 熊本県地域医療支援機構理事会の運営

➤ 第12回熊本県地域医療支援機構理事会

下記のとおり開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染等の問題が発生し、書面会議となりました。結果としては、協議事項全て承認されました。

【日 時】令和2年3月2日 14：30～15：30

【協議事項】

- (1) 令和元年度（2019年度）事業実績について（資料1）
- (2) 令和2年度（2020年度）事業計画について（資料2）
- (3) 熊本県医師修学資金貸与医師配置調整案について（資料3）

◆ 県医療行政・市町村との連携

- ・ 熊本県医療政策課の担当者と地域医療支援機構の職員との連絡会を月1～2回開催し、事業の進め方や政策推進について協議しました。（地域医療支援機構担当者連絡会等）
- ・ 医療法改正に伴い、厚生労働省が示した「キャリア形成プログラム運用指針」で、市町村等の修学資金貸与医師に対してもキャリア形成プログラムの適用に努めることとされているため、県内の自治体等の独自の医師修学資金についてその実態を調査をしました。

◆ 熊本大学医学部、県が設置する寄附講座、他の県委託事業との連携、調整

- ・ 地域医療・総合診療実践学寄附講座とは医師修学資金貸与学生主体の地域医療ゼミや夏季地域医療特別実習をはじめ各種セミナー等の開催に協力・支援し、一体となった取り組みに努めました。
- ・ 医学部をはじめ関係組織との連携に努め、学生等の地域医療研修等の支援を行いました。
- ・ 熊本県医療勤務環境改善支援センター運営協議会に機構理事及びコーディネーターがオブザーバーとして参加、逆に女性医師キャリア支援連絡協議会に医療勤務環境改善支援センターから参加し相互に連携を図りました。また、医療勤務環境改善センターと協議の上、そよう病院におけるファミリーサポートセンターの企画に協力しました。
- ・ 熊本県医師修学資金貸与医師の派遣対象医療機関に関する医療勤務環境改善支援センターとの相互連携
 - 毎月1回実施している県医療政策課と地域医療支援機構担当者会議に医療勤務環境改善支援センターのセンター長、企画調整課長が出席。地域医療行政に関する情報共有を図りました。
 - 医療勤務環境改善センターで実施する働き方改革に関する医療機関説明会等について当機構としても知事指定病院等について説明会開催の周知を行い、医師の勤務環境改善の必要性等について注意喚起を図りました。

令和元年度 熊本県地域医療支援機構講演会

社会的ニーズに対応した
総合診療医の育成

この数年の間に地域医療に係る制度改革や計画の策定が次々に行われてきました。地域医療構想の策定、医療法等の改正、第7次熊本県保健医療計画の策定等が行われ、現在地域医療対策協議会では医師確保計画の検討が行われています。その計画では、医師の地域偏在の解消に向け将来の地域医療の姿を描きながら医師の育成や確保等について定めていくこととされています。

そのような中で、地域医療の人材育成に当たる大学をはじめ関係機関の役割には大きなものがあります。そこで、地域社会と連携した総合診療医の育成に取り組んでいる、富山大学の山城先生に御講演いただき、地域医療にあたる医師育成について考える機会として、今回の講演会を開催しました。

日時 2019年11月25日(月) 18:30~19:40
場 所 熊本大学病院 山崎記念館 研修ホール
講 師 山城 清二 先生
(富山大学附属病院 総合診療部教授)
対 象 医師及び医療関係者、自治体関係者等
主 催 熊本県地域医療支援機構
共 催 熊本県医師会
後 援 熊本市医師会、熊本県市長会、熊本県町村会
協 力 日本プライマリ・ケア連合学会

お問合せ先
熊本県地域医療支援機構 TEL 096-373-5627
E-mail chiki-hq@kumamoto-u.ac.jp
HP <http://www.chiki-hq.kumamoto-u.ac.jp/>

2019年11月25日金曜日 18:30~19:40

令和元年度熊本県地域医療支援機構講演会

「社会的ニーズに対応した総合診療医の育成」

この数年の間に地域医療に係る制度改革や計画の策定が次々に行われてきました。地域医療構想の策定、医療法等の改正、第7次熊本県保健医療計画の策定等が行われ、現在地域医療対策協議会では医師確保計画の検討が行われています。その計画では、医師の地域偏在の解消に向け将来の地域医療の姿を描きながら医師の育成や確保等について定めていくこととされています。

そのような中で、地域医療の人材育成に当たる大学をはじめ関係機関の役割には大きなものがあります。そこで、地域社会と連携した総合診療医の育成に取り組まれている、富山大学の山城先生に御講演いただき、地域医療にあたる医師育成について考える機会として、今回の講演会を開催しました。



開会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理事長
熊本大学病院
谷原 秀信 病院長



富山大学附属病院 総合診療部
山城 清二 教授

山城先生からは、大学病院での取組みから始まり、地域でしかできない人を育てる仕組みづくり、南砺市での実践的な活動のお話がありました。また、デザインの理論を取り入れた思考法、富山市まちなか総合ケアセンターの紹介もあり、興味深い講演内容でした。

今回はテレビ会議システムを利用し、天草市の河浦病院との間で、実況中継を行いました。



閉会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構副理事長
熊本県健康福祉部
迫田 芳生 医監

女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー（啓発活動）を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

- マタニティ白衣の貸出
- お留守番医師制度
- メンター制度、メンター連絡会議
- キャリア支援セミナー
- クローバーセミナー
- 学童保育のニーズ調査
- 広報活動（ホームページ、テレビ、雑誌掲載、チラシの作成等）
- 学会・講演会などでの発表、情報交換
- 学生への啓発活動として、「医学生・研修医等をサポートするための会」開催や、1学年・4学年への講義

◆ 相談業務

熊本県女性医師キャリア支援センター（熊本大学病院内に設置、専任医師1人、コーディネーター1人）が相談窓口。

◆ 相談件数

2019年度（2019年4月1日から2019年1月31日まで）は総計74名から相談や制度のお問い合わせがありました。うち29名が男性で、「お留守番医師制度について」「求人のお問い合わせ」「ネットワークづくり」に関する問い合わせが多く、45名が女性で、「お留守番医師制度について」「保育施設について」の相談が多くありました。

相談の総内訳（延べ相談数）

2019年4月1日～2020年1月31日 ▼

お留守番医師制度について	17
働くこと働き方についての相談	2
求人の問い合わせ	11
保育施設について	11
支援制度についての問い合わせ	6
ネットワークづくり	14
復職相談	3
メンター制度について	1
同僚・医局の医師について	3
子育てについて	0
社会保障等について	1
マタニティ白衣・パンツについて	5

◆ マタニティ白衣、マタニティパンツの貸し出し

今年度2月末時点での利用者は6名でした。今後も妊娠中から気軽にご相談できる雰囲気づくりに努め、是非多くの医師にご利用いただきたいと思います。
（白衣はSサイズ10着、Mサイズ10着。スクラブパンツは平成29年5月作成、Mサイズのみ10着あり。）



◆ 育児支援

山都町包括医療センターそよう病院において院内で子育てを援助する仕組み（病院職員OBや地域住民が子育てサポーターとして保育に協力してくれるシステム）「そよ風サークル」を設立。今年度も、そよう病院「子育て勉強会」のコーディネート協力などを通して、設立に向けた必要な支援を行いました。

◆ お留守番医師制度

「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関（現在20医療機関）と連携しています。復職希望医師にとっては週1回（場合によっては月1回も可）からの復職が可能で、在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保につながり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの互助システムです。熊本県女性医師キャリア支援センターの復職コーディネーターが復職希望者の体験申し込みを受けて、在宅医療を開始したいドクターとつなぎ、体験日を決めます。体験がうまくいけば、当事者同士で3か月更新の雇用契約を結びます。

この制度で勤務中には、熊本市医師会保育所「メディッコクラブ」が無料で利用できます。

今年度は1名の医師がこの制度を利用し復職されました。その他、昨年度からの継続4名 体験のみ1名合わせて5名がお留守番医師制度を利用中です。

お留守番医師制度に加入している医療機関
(2020年2月28日時点) ▼

診療所の先生方 訪問診療時間に「お留守番Dr」システムを利用してみませんか？

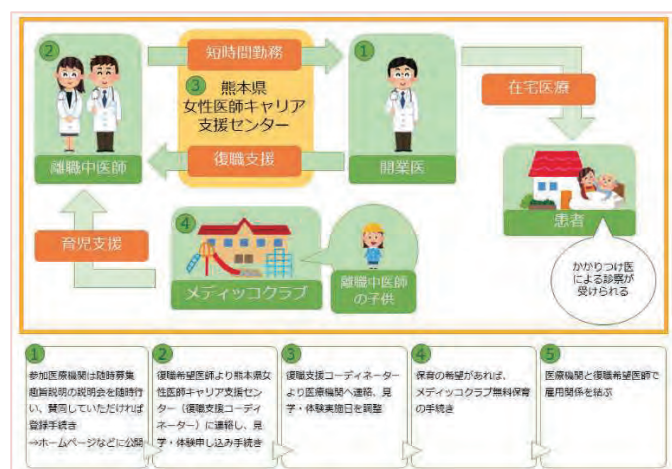
かかりつけの患者さんの訪問診療をお断りされたことはありませんか？
訪問診療に割く時間がない、
ましてやもう一人医師を雇う経済的な余裕なんて・・・

解決できます

長年培われた先生と患者さんの関係をそのまま継続し、患者さんの自宅に赴く訪問診療に取り組みたいかがでしょうか？
貴院の外来診療に協力してみようと思っている医師に、医療機関の情報を開示し、まずは体験の機会を得て頂くシステムです。
条件が合えば外来診療の協力が繋がると 생각합니다。

県下各地域で伺ったお話を元に、在宅医療へ取り組む医師への応援団として、この事業を企画しました。
県内どこへでも、詳しい説明に参ります。地域の先生方にもお声かけいただければ幸いです。

お問い合わせ：熊本県地域医療支援機構（熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター内）
TEL:096-373-5795
メールアドレス：k-joseishi@kumamoto-u.ac.jp
復職支援コーディネーター 高塚 貴子



熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科クリニック
熊本市南区	御幸病院
熊本市北区	清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
阿蘇郡	阿蘇立野病院
菊池市	宮本内科クリニック
荒尾市	西原クリニック
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
上益城郡	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
上益城郡	山地外科胃腸科医院
宇土市	宇土中央クリニック
水俣市	山田クリニック
宇城市	済生会みすみ病院
熊本市中央区	明牛橋内科クリニック
熊本市北区	まえだクリニック
菊池市	菊池郡市医師会立病院
宇城市	中村医院

◆ 広報活動

- ・ ホームページ、携帯サイトの運営をしています。
- ・ ホームページでは、復職支援、短時間勤務、育児支援、メンター制度、セミナー情報、求人情報（HP掲載28件）マタニティ白衣の貸出、相談窓口、介護情報などを掲載しています。
- ・ Facebook及びTwitterネットワークによる情報交換・情報の共有を図っています。
- ・ 「熊大通信」、「くまにちすばいす」に熊本県女性医師キャリア支援センターの取組についての記事が掲載されました。
- ・ パンフレット2000枚作成（A4版：1000枚、3つ折り版：1000枚）し、相談者や各種セミナー、授業の際に医学部生へ配布しました。
- ・ 熊本県女性医師キャリア支援センター/熊本県地域医療支援センターの名称入り手提げ袋を各種セミナーで配布しました。



◆ 学会・講演会での発表、情報交換

- ・ 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（R1.5.17～19）シンポジウムパネリスト「ずっと働きたい職場を目指して」
- ・ 第6回九州山口家庭医療・総合診療セミナー（R1.6.30）講演「女性医療者としてキャリアを考える」
- ・ 熊本市公的病院等地域連携協議会（R1.8.20）講演「医療人の働き方改革を進めるために」
- ・ 令和元年度自治医科大学熊本県人会総会（R1.10.12）シンポジウムシンポジスト「これからのへき地医師・女性医師の支援について」
- ・ 女性医師支援センター事業九州ブロック会議（R1.10.19）報告「地域でも活躍できる環境の好事例」
- ・ 第8回西予市お伊ネ賞事業表彰式 日本医師会女性医師支援シンポジウム（R1.11.30）受章者・シンポジウムシンポジスト



◆ 学生への啓発活動

- ・ 1学年講義： R1.7.8 医学概論「男女共同参画」
- ・ 4学年講義： R1.5.15 医療と社会Ⅰ「男女共同参画」
- ・ 熊本県医師会主催 令和元年度 医学生・研修医をサポートするための会「やりたいことをあきらめない！Dr.Yukaのフィジカルアセスメントレッスン」の共催

◆ 女性医師キャリア支援に関するネットワークの構築

- ・ 熊本県地域医療支援機構、熊本県医師会男女共同参画委員会、熊本市医師会女性医師キャリア支援センター、熊本大学病院男女共同参画推進委員会で協力して組織した「熊本県医療人キャリアサポートの会（クローバーの会）」の活動において、各機関が連携して講演会やセミナーなどの啓発活動、短時間勤務制度の有効活用などのための相談業務、育児支援等を実施し、女性医師の勤務の継続、円滑な職場復帰等を進めています。
- ・ 地域枠医師の受け入れ先となる知事指定医療機関についても、女性の地域枠医師の勤務が増えることが確実なことから、各種セミナーへの参加等を強く促して、女性医師の働き方や職場環境においてさらなる配慮の必要性を理解いただくよう促しています。
- ・ 今後、知事指定病院等状況調査の結果を踏まえて、女性医師のキャリア形成と働き方について、勤務環境改善センターとも連携して、女性医師が働きやすい、安心して子育てのできる環境の中でキャリア形成が図られる環境づくりを進めていきます。

◆ メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考えてみる取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

メンターとして現在29人の男女医師が登録しており、メンティとして現在2名の女性医師が登録しています。メンター自身のスキルアップを目的に、今年度は1回「メンター連絡会議」を開催しました。

令和元年5月15日

議題：座談会「日本の男性医師と女性史のアカデミックキャリアの構築にはどのような違いがあるか」

日時 2019年5月15日（水）11：30～14：30

場所 熊本大学病院 山崎記念館1階会議室

座談会メンバー：

九州中央リハビリテーション学院 学院長 河野 文夫 先生

広島大学大学院医系科学研究科教授 医学教育センター副センター長 蓮沼 直子 先生

熊本大学大学院生命科学研究部 法医学分野 教授 西谷 陽子 先生

熊本大学病院地域医療支援センター助教 後藤 理英子 先生

◆ クローバーセミナー



2020年2月7日金曜日 19:00～21:00

熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー

「医療人がOne Teamで働くために」

クローバーの会（熊本県医療人キャリアサポート）では、女性医師キャリア支援の観点から、男女共同参画推進活動にも積極に取り組んでいます。今回のセミナーでは、熊本県における取り組みをご紹介しますとともに、下記の先生方に、女性医療人の復職の壁と支援の在り方について管理職や弁護士の立場からご発表とディスカッションをしていただきました。

【出席者：40名】



開催のあいさつ

熊本県地域医療支援機構理事

熊本大学病院 地域医療支援センター 准教授

谷口 純一 先生



1、「クローバーの会活動報告」

国立病院機構熊本医療センター院長 熊本県医師会男女共同参画担当理事

クローバーの会会員

高橋 毅 先生



2、「女性医師支援～ハードとソフトの両面から考える～」

千葉大学病院脳神経内科准教授

医師キャリア支援センター副センター長 三澤 園子 先生

ハード面からの支援である学童保育について、ソフト面からは家庭内の協力についてご講演いただきました。



3、「労働法制を使いこなそう～医療人がOneTeamで働きやすくなるために～」

日本医師会日医総研 主任研究員 上家 和子 先生

労働法制について分かりやすく説明していただき、女性が継続して働くことを阻害する敵はどこにあるのか知識を持つておくことの重要性を感じました。



4、パネルディスカッション「復職の壁を考える」

ふじき法律事務所 弁護士・医師 藤木美才 先生

事例の問題点がどこにあるのか、国の政策の方向性について明らかにしていただきました。

事例1：熊本大学病院 皮膚科 助教 青井 淳 先生

事例2：荒尾市民病院 脳神経内科 部長 大嶋 俊範 先生

事例紹介では復職したくてもできない事例を紹介していただき、部長、医局長のご苦勞が身に沁みました。



閉会のあいさつ

クローバーの会会員

天野整形外科皮膚科 副院長 天野 富紀子 先生



閉会のあいさつ

熊本県医師会男女共同参画委員会 副委員長

みわクリニック 院長 秋月 美和 先生



今回はテレビ会議で熊本市外からもディスカッションに参加していただきました。活発な議論となり有意義なセミナーとなりました。

➤ クローバーセミナーのアンケート結果（一部抜粋）

回答：10名

性別：男性5名 / 女性5名

職業：医師6名 看護師0名 医療関係者1名 そのほか1名、事務2名

【これまでに復職の壁を感じたことはありますか？】

- ・育児休業から復職すると、入る前と同じ働く環境ではないことが絶対的に多いと思いました。
- ・二人目を出産後、これまでの綱渡りの生活に疲れ一年間育休を取った。
- ・（昔の話ですが）産休明けに復帰した際、本人との話し合いなく他の医師と同じように当直を割り当てられていた事。
- ・24時間在宅医療にも従事していた際、妊娠が分かり辞めました。産休、育休制度も知りませんでした。知識が足りなかったと反省。

【職場に必要なOneTeamで働く為の工夫】

- ・託児所やフレックス勤務、自宅勤務など。
- ・女性医師を働きやすくする為の働きかけ。
- ・思いやりで休職した人の事情を考える。
- ・制度の理解、組合活動の認識、職場の意識改革とシステムの導入、業務改善への取り組み。
- ・院内託児、時短勤務、残業保障。

◆ その他セミナー

主催

令和元年度キャリア支援セミナー「あんがーまねじめんと 応用編」
2019年5月14日火曜日 18:30～20:00



広島大学大学院医系科学研究科教授
医学教育センター副センター長
蓮沼 直子 先生

イライラの感情を管理し、適切な問題解決やコミュニケーションに結び付けるため、怒りの沈め方、自分の怒りを相手に理解してもらえるよう伝えるにはどうしたらよいかについて学びを深めました。

参加者【19名】

共催

医学生・研修医をサポートするための会セミナー
「Dr.Yukaのフィジカルアセスメントレッスン」
2019年11月13日水曜日 18:30～20:30



聖マリアンナ医科大学病院
救急救命センター
助教 北野 夕佳 先生

医学部生、若手医師が参加しフィジカルアセスメントレッスンをしていただきました。楽しく身になるレッスンで、低学年から現役の医師まで、明日から使えるよりスピーディーに正確な診断に導くことができる診察方法を学びました。

参加者【15名】

4. そのほか

◆ 新聞記事

熊本県 熊本日日新聞 平成31年(2019年)4月3日 水曜日

臨床的意義の低い5つの診療行為

- 1 病歴のない成人患者に対する「PET-CT検査によるがん検診」
- 2 病歴のない成人患者に対する「血清CEAなどの腫瘍マーカー検査によるがん検診」
- 3 病歴のない成人患者に対する「MRIによる脳ドック検診」
- 4 特異的な腫瘍を訴えない患者に対する「形式的な経膈パルンカ穿刺の検診」
- 5 臨床的に有用のない患者に対する「形式的な経膈パルンカ穿刺の検診」

※これらの診療行為は推奨しないとするが「Choosing Wisely」の考えである。絶対に必要としないわけではなく、医師と患者がよく話し合うべきとされる。

ことばの点滴

熊本大病院地域医療支援センター特任助教 高柳 宏史さんに聞く

「臨床的意義の低い5つの診療行為」について、高柳さんはどうお考えですか？

「PET-CT検査、血清CEA検査、MRIによる脳ドック検診、形式的な経膈パルンカ穿刺の検診、形式的な経膈パルンカ穿刺の検診」は、がん検診として、がんを早期発見し、治療の機会を増やすことが目的です。しかし、これらの検査は、病歴のない成人患者に対しては、臨床的意義が低いとされています。がん検診は、がんを早期発見し、治療の機会を増やすことが目的です。しかし、これらの検査は、病歴のない成人患者に対しては、臨床的意義が低いとされています。

医師と患者 対話進めて

「がん検診」は、がんを早期発見し、治療の機会を増やすことが目的です。しかし、これらの検査は、病歴のない成人患者に対しては、臨床的意義が低いとされています。医師と患者が対話を進め、必要としない検査を受けないことが大切です。

熊本県 熊本日日新聞 平成31年(2019年)4月10日 水曜日

医師にかかる10箇条

- 1 医者の主眼点は「患者の責任」
- 2 病歴のない成人患者に対する「PET-CT検査によるがん検診」
- 3 病歴のない成人患者に対する「血清CEAなどの腫瘍マーカー検査によるがん検診」
- 4 病歴のない成人患者に対する「MRIによる脳ドック検診」
- 5 特異的な腫瘍を訴えない患者に対する「形式的な経膈パルンカ穿刺の検診」
- 6 臨床的に有用のない患者に対する「形式的な経膈パルンカ穿刺の検診」
- 7 がん検診は、がんを早期発見し、治療の機会を増やすことが目的です。
- 8 がん検診は、がんを早期発見し、治療の機会を増やすことが目的です。
- 9 がん検診は、がんを早期発見し、治療の機会を増やすことが目的です。
- 10 がん検診は、がんを早期発見し、治療の機会を増やすことが目的です。

ことばの点滴

熊本大病院地域医療支援センター特任助教 高柳 宏史さんに聞く

「医師にかかる10箇条」について、高柳さんはどうお考えですか？

「医師の責任」は、患者の健康を守ることです。医師は、患者の健康を守ることが最大の責任です。医師は、患者の健康を守ることが最大の責任です。

上手な受診 患者自身が「主人公」

「患者自身が主人公」として、医師と対話を進め、必要としない検査を受けないことが大切です。

熊本県 熊本日日新聞 平成31年(2019年)4月16日 火曜日

地域医療向上に貢献を 熊本大病院、天草市に拠点

熊本大病院は、天草市の天草地域医療センターに「地域医療・総合診療実践学寄付講座」を設置し、特任教授は「高橋純一」などである。玄関前の看板除幕もあつた。同講座の松井邦彦特任教授は「高齢化が進んでいる地域では、高血圧や糖尿病など、複数の病気を抱える患者が多い。広い視野を持った医師を育てたい」と話した。

（赤池一光）

天草地域医療センター



天草地域医療センター玄関前に設置された看板の前立つ関係者ら＝天草市

熊本県 熊本日日新聞 令和元年(2019年)8月18日 日曜日

県出身医学生、地域医療学ぶ

熊本大病院が県内各地域医療や福祉の現状について現場で学ぶ「夏季地域医療特別実習」が17日、多良木町や湯前町など球磨地域であった。熊本大病院が県内各地域医療や福祉の現状について現場で学ぶ「夏季地域医療特別実習」が17日、多良木町や湯前町など球磨地域であった。

交換を通して課題などを知ってらおうと、熊本大病院が県内各地域医療や福祉の現状について現場で学ぶ「夏季地域医療特別実習」が17日、多良木町や湯前町など球磨地域であった。

2019年(令和元年)8月24日 土曜日

球磨版

医学生27人が上球磨へ

熊本大病院 地域の実情、課題を探る

熊本大病院が県内各地域医療や福祉の現状について現場で学ぶ「夏季地域医療特別実習」が17日、多良木町や湯前町など球磨地域であった。

熊本県地域医療支援機構

令和2年1月31日(金) くまにち すばいす掲載

気になるあの人にインタビュー

Kumamoto
すてきびと
Wonderful Person

熊本県女性医師キャリア支援センター 専任医師
後藤 理英子さん
Rieko Goto

**結婚、出産後の女性医師をサポート
生き生きと働ける現場を増やしたい**

女性医師の復職・就業継続支援に力を注ぐ後藤さんは大学病院入局後すぐに結婚、出産しました。「現場を離れ育児をしている間、医師として置いていかれるのではないかと焦りを抱える毎日でした」。出産後2カ月で一度、復職したものの、フルタイム勤務や当直ができないと臨床で勤務を続けることは難しいと身をもって経験しました。

その後、大学病院の代謝内科の研究員として仕事を続けながら「もっと女性医師が生き生きと活躍できる場を広げたい」と、院内にある県女性医師キャリア支援センターにも2014年から所属。同じ境遇に悩む女性医師に短時間勤務が可能な病院を紹介するほか、キャリア支援に関するセミナーや育児支援の情報提供を行って来ました。

この実績が認められ昨年、日本初の産科女医・楠本イネの偉業を顕彰し医療分野で活躍する女性を表彰する「西予市お伊ネ賞」の全国奨励賞を受賞。目指していた博士号と総合内科専門医の資格も取得し、「女性医師が現場でアカデミックキャリアを積んで行けるような支援をさらに充実させたい」と語ります。

Time Schedule

6:00	起床	20:00	子どもを預けているシルバース
8:00	外来の病院へ		んぞへお迎え
12:30	昼食	20:30	夕食
13:30	駅次で読書	22:00	就寝
19:30	帰宅		

Information 復職希望の女性医師のための相談窓口
HP(<http://kumamoto-joseshi.jp>) 問い合わせセンター☎096(373)5795

公益社団法人 日本医師会
女性医師支援センターから

「第8回西予市お伊ネ賞事業表彰式・
日本医師会女性医師支援シンポジウム」開催のご報告

令和元年11月30日(土)に愛媛県西予市宇和文化和会館にて「第8回西予市お伊ネ賞事業表彰式・日本医師会女性医師支援シンポジウム」が開催されました。西予市お伊ネ賞事業は、日本初の産科女性医師でシーボルトの娘「楠本イネ」の偉業を顕彰し、その志を継ぎ、女性医師を奨励することで社会における女性の活躍推進を図り地域活性化につなげることを目的に平成24年度に創設されました。

第1部では、医療活動や医学研究に活躍する女性医師や女子医学生の表彰が行われ、本年度は日医推薦の後藤理英子先生が「全国奨励賞」を受賞された他、2名の方が受賞し、表彰されました。

【受賞者】

「全国奨励賞」
熊本大学病院地域医療支援センター 特任助教 後藤 理英子 氏

「地域奨励賞」
愛媛大学大学院医学系研究科小児科学講座 教授 江口 真理子 氏

「医学生奨励賞」
愛媛大学医学部 医学科 5年生 武田 遥奈 氏

西予市では「平成30年西日本大雨災害」からの復興を目指し、強い思いをもって歩みを進めています。そこで第2部の女性医師支援シンポジウムでは、「復興元年もっと元気に もっと素敵に」をテーマとし、市民講座では順天堂大学医学部教授・東京都医師会理事・スポーツ庁参与の小林弘幸先生が、「健康の正体～自律神経と腸内環境を整えて毎日元気～」と題し、ゆっくり生きることの重要性を講演。また基調講演では、横倉義武会長が「健康な社会を作ろう」と題し、医師会の役割を語るとともに、明るい健康長寿社会に向けた見解を説明しました。

同時に開催されたパネルディスカッションでは、今回お伊ネ賞を受賞された3名と過去の受賞者3名で「医療界の男女共同参画～女性医師の働き方～」について意見交換を行いました。

当日は市民の皆様、医療関係者を合わせ約600名にご来場頂き、大変盛況のうちに幕を閉じました。

医師の求人・求職は
日本医師会女性医師バンク <https://www.jmawdbk.med.or.jp/>

登録件数 求職者数1,431人(累計)、求人施設数5,589施設(累計)、就業決定及び再研修紹介1,013件(累計) (令和元年11月30日現在)

問い合わせ先 女性医師支援センター(女性医師バンク)
☎ 03-3942-6512 info-bank@jmawdbk.med.or.jp



REPORT

熊本大学病院地域医療支援センターの後藤理英子特任助教が
第8回西予市お伊ネ賞を受賞しました

11月30日(土)に愛媛県西予市で開催された第8回西予市お伊ネ賞事業表彰式において、後藤理英子熊本大学病院地域医療支援センター特任助教が全国奨励賞を受賞されました。

愛媛県西予市、日本医師会、愛媛県医師会が主催する同事業は、シーボルトの娘「楠本イネ」の偉業を顕彰し、現代女性の活躍推進や地域の活性化を図ることを目的としており、その志を継ぎ医学研究や医療活動に活躍する女性を対象に表彰・激励されているものです。

後藤特任助教は、子育てをしながら臨床・研究の仕事を継続し、また、その経験を活かして熊本県女性医師キャリア支援センターや熊本大学病院において男女共同参画を推進しています。女性医師・女性研究者が能力を発揮できるための環境づくりに尽力しているこれらの業績が評価され、今回の受賞に繋がりました。



第8回西予市お伊ネ賞受賞者(左が後藤特任助教)

1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、平成27年度末に廃止された「地域医療システム学寄附講座」の後継として平成28年4月1日に設置され、本年度が最終年度となっていました。これまで3年間の実績に基づき、さらに延長されることになりました。

同講座は、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」「総合診療医の育成」「地域医療実践教育拠点の運営」など、地域医療を志す医師の養成を目指して、より実践的な取り組みを進めています。具体的には、熊本大学医学部医学科学生（熊本県医師修学資金貸与学生を含む。）や若手医師に対して、卒前からの一貫した地域医療教育を通じた、地域医療マインドの涵養に取り組んでいます。また、今後地域医療への貢献が期待される総合診療専門医の育成において、玉名と天草の医療機関に総合診療の教育拠点を設置するとともに、医師の不足する地域の医療機関に対して診療支援を行っています。

【主な内容】

- ① 地域医療支援（診療支援）
- ② 調査・研究
- ③ 教育活動
 - ・ 卒前教育（カリキュラム内教育）
 - ・ 卒後教育
 - ・ 初期臨床研修
 - ・ 専門研修
- ④ 指導医養成
- ⑤ 講演会

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	13	天草教育拠点開所式
		第8回レジデントデイ
5	17	クリクラ⑪振り返り会
	18-19	第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
	5/31-6/1	熊本臨床研究ワークショップ
6	7	クリクラ⑫振り返り会
	28	クリクラ⑬振り返り会
7	13	第9回レジデントデイ
	19	クリクラ①振り返り会
8	16-17	夏季地域医療特別実習
	6	クリクラ②振り返り会
9	12	クリクラ⑮振り返り会
	12	第16回総合診療グランドラウンド
	27	クリクラ③振り返り会
10	18	クリクラ④振り返り会
	21	生涯教育研修セミナー
11	8	クリクラ⑤振り返り会
	29	クリクラ⑥振り返り会
12	20	クリクラ⑦振り返り会
	28	第10回レジデントデイ
1	24	クリクラ⑧振り返り会
2	14	クリクラ⑨振り返り会
3	6	クリクラ⑩振り返り会

3. 活動報告

I 地域医療支援（診療支援）

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療等も担当しました。

玉名教育拠点にては、「総合診療科」の外来および病棟診療を行いました。また同院の救急診療にも携わりました。その他の熊本県内の医師が不足している病院に対し、県からの要請に基づき、診療支援活動を行いました。

◆ 大学病院 総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	前田
			谷口（2019.9～ 2020.3 奇数週）	

◆ 学外診療支援

松井	2019.4～2020.3 公立玉名中央病院（週1回）
佐土原	2019.4～2020.3 阿蘇医療センター（週1回）
	2019.4～2020.3 そよう病院（週1回）
前田	2019.4～2020.3 上天草総合病院（奇数週、週1回）

II 調査・研究

◆ 地域医療実習教育に関する調査研究

医学科3年次学生に対する地域医療実習（早期臨床体験実習Ⅲ）については、今年度より各受入先施設の実習計画を学生に事前提供出来るよう、実習協力施設に対し実習計画調査表を送付し実習内容の調査を行いました。また、本年度から必修化された5・6年次学生に対する地域医療実習（クリニカルクラークシップ）に関しても、旧5年生の13ターム終了後に、実習協力先14施設に対し、実習に対するアンケートを行い、現状の把握及び更により良い実習となるよう調査・確認を行いました。

◆ 総合診療専門医普及に関する調査研究

「熊本大学総合診療専門研修プログラム」については、プログラムの変更申請に際し、プログラム内容の更新及び充実のため、研修内容、施設情報、指導医の有無の調査を行いました。また、総合診療専門医の特任指導医講習会の受講状況を調査し、これまで専攻医が研修した連携施設は講習会を受講済みもしくは本年度受講予定の指導医が在籍しており、総合診療専門医の研修施設の要件を満たしていることが分かりました。

◆ 医療機関の勤務環境に関する調査研究

県内の医療機関の勤務環境について、熊本県地域医療支援機構と連携して調査・研究を行いました。調査結果は医師修学資金貸与医師が勤務先を選択際の資料として活用することにしています。また、女性医師キャリア支援センターと連携して、子育てと仕事の両立等に関するアンケート調査を行い、活動の方向性について検討を行いました。

◆ 教育拠点に関する調査研究

玉名教育拠点については、拠点及び総合診療科が設置され3年経過し、これまでの取組みと成果について同病院で調査研究が行われ、当講座でも協力支援しました。天草地域医療センターに平成31年4月に設置した天草教育拠点については、熊大病院との連携課題についての調査を行いました。

◆ 教育活動

◆ 卒前教育（カリキュラム内教育）

地域医療システム学寄附講座を設置以来、これまでも医学科カリキュラムの実施に協力してきましたが、昨年度から、地域医療・総合診療実践学寄附講座として、医学科長からの正式な依頼に基づき、以下の実習および講義を行いました。なお、熊本県地域医療支援センターへの依頼があった講義（※）も、一緒に記載しています。

- | | | | | |
|-----|--|-----|---|---|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none"> 早期臨床体験実習Ⅰ 医学概論※ | 4年生 | <ul style="list-style-type: none"> 医療と社会Ⅰ 総合診療学 | <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習入門 チュートリアル |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none"> 早期臨床体験実習Ⅱ 医学英語 | 5年生 | <ul style="list-style-type: none"> 特別臨床実習 | |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none"> 早期臨床体験実習Ⅲ 公衆衛生学 | 6年生 | <ul style="list-style-type: none"> 特別臨床実習 | |

行動科学Ⅰ		1年生
2019/7/1	谷口【コミュニケーション】	
2019/7/8	後藤【男女共同参画】	
2019/7/18	谷口・高野【喫煙と社会】	

現代社会と医学B		1年生
2018/7/12	谷口・田宮【地域中核病院から見た地域医療】	
2018/7/19	谷口・片岡【熊本県の地域医療について】	

医学英語		2年生
2019/11/6	佐土原【腫瘍医学】	
2019/11/13	小山【プライマリケア】	

早期臨床体験実習Ⅰ		1年生
2019/9/9	松井【オリエンテーション】	
2019/9/10 - 2019/9/13	松井【施設での実習】	
2019/9/26	松井【ECE1発表会1】	
2019/10/3	松井【ECE1発表会2】	

① 早期臨床体験実習Ⅰ・Ⅱ（ECE1・2）

早期臨床体験実習Ⅰは1学年を対象とし、Ⅱは2学年を対象として、5年前に改正された新カリキュラムに基づき必修科目として実施されているものであり、Ⅰは従来から実施していた「早期社会体験実習」の名称を変えて、またⅡは3年間の早期臨床体験実習の中間に位置付けているものである。

早期臨床体験実習Ⅰについては、臨床医学教育研究センターが実施責任者となり、当講座が協力する形で9月9日～13日の5日間に渡り実施された。初日の午前、大学において導入・オリエンテーションを実施し、その後県内の28施設（心身障害児（者）施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、療養型病院等）で1年生116人が実習を行った。

また、実習後は、9月26日、10月3日の2回に分けてグループ毎に発表会を行った。

なお、2月27日～3月4日に実施予定だった早期臨床体験実習Ⅱについては、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

公衆衛生学		3年生
2019/6/28	中本【地域医療行政関係】	
2019/6/28	佐土原【その他の医療制度の現状と今後】	
2019/7/2	高杉【地域医療、特にへき地医療】	
2019/7/2	高柳【プライマリ・ケア関係】	

早期臨床体験実習Ⅲ		3年生
2019/11/29	高柳【オリエンテーション】	
2019/12/2 - 2019/12/6	高柳【学外実習】	
2019/12/6	高柳【振り返りグループワーク】	

医療と社会Ⅰ		4年生
2019/5/15	後藤・蓮沼【男女共同参画】	
2019/5/27	谷口・高野【行動科学・禁煙】	
2019/6/19	谷口・下地【医療人類学】	

総合診療学		4年生
2019/4/16	谷口【医療のプロセスと医療面接総論】	
2019/4/17	谷口【医療面接各論1・2】	
2019/5/7	佐土原【身体診察概論】	
2019/5/14	田宮【臨床推論概論】	
2019/5/21	高杉【臨床推論演習1】	
2019/5/28	前田【臨床推論演習2】	
2019/6/4	鶴田【臨床推論演習3】	
2019/6/11	小山【臨床推論演習4】	
2019/6/18	松井【総合診療概論】	

チュートリアル実習		4年生
2019/10/9	谷口【Narrative-based Medicine】	
2019/10/10	谷口・清藤【物語医療】	

臨床実習入門		4年生
2019/9/4	谷口【医療面接】	
2019/9/9	谷口【医療面接】	
2019/9/11	前田【医療面接】	
2019/9/13	谷口【医療面接】	
2019/9/18	松井【医療面接】	

プレ臨床実習		4年生
2018/10/28	谷口【カルテの書き方】	

➤ 早期臨床体験実習Ⅲ 指導医ワークショップ

【日 時】2019年11月6日（水）、14日（木）

【場 所】熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床
医学教育研究センター 奥窪記念ホール

【内 容】

- ・実習概要・目的について
- ・ログブック・評価について
- ・実習詳細について

② 早期臨床体験実習Ⅲ（ECEⅢ）

早期臨床体験実習Ⅲは、早期臨床体験実習Ⅰ

（1学年対象）及び早期臨床体験実習Ⅱ（2学年対象）に続く完結版として、また上位学年で実施される臨床実習への基礎入門編として3学年を対象に必修として実施されるものである。

平成26年度入学の学生から適用される新カリキュラムに基づき、当講座が実施している。

今年度は、12月2日～6日の5日間に渡り、県内の90医療機関の協力を得て、3年生全員（119人）が実習を行った。また、9月17日に学生オリエンテーション、実習前週金曜日（11月29日）の午後に導入を行い、週明け月曜日には朝から実習に携われるよう日程の見直しを行った。最終日6日の午後から振り返りを大学内において実施した。

また、実習実施に当たっては、11月6日及び14日の両日に分けて、実習受入施設の55施設の指導医及び担当事務60名を集め、FD講習会を開催して実習の指導徹底を図った。

今年度より学生が実習先の選定材料となるよう、事前に実習協力施設128施設に対し「実習計画調査票」の作成を依頼し、1週間の実習計画についての調査・聞き取りを行った。

授業の目的：診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を身につけることを目標とする。

授業の概要：

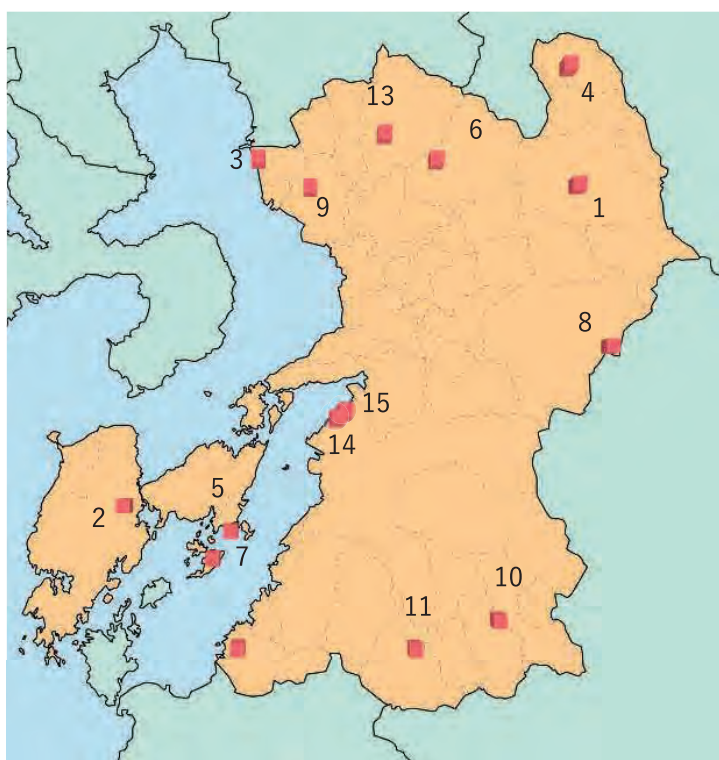
現在、5学年7月から6学年の9月までの全15ターム（1タームは3週間）で実施されている特別臨床実習(13タームまでは5年次の必須科目。14・15タームは6年次の選択科目)において、当講座は、平成26年度から地域医療を提供している。

➤ 各医療機関の特別臨床実習「地域医療」および「総合診療*」における学生受け入れ人数

No.	施設名	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	累計
1	阿蘇医療センター	--	--	--	2	3	1	8	14
2	天草地域医療センター	--	--	--	5	5	12	13	35
3	荒尾市民病院	--	--	--	--	5	9	10	24
4	小国公立病院	4	8	9	3	6	4	4	38
5	上天草総合病院	3	10	13	4	0	2	6	38
6	菊池郡市医師会立病院	--	--	--	--	2	7	6	15
7	御所浦診療所	--	--	--	5	2	4	5	16
8	そよう病院	4	4	13	4	0	4	6	35
9	公立玉名中央病院	--	--	5	17	16	4*	15*	57
10	公立多良木病院	1	0	0	6	2	5	11	25
11	人吉医療センター	--	8	19	7	7	20	9	70
12	水俣市立総合医療センター	--	--	--	6	5	9	10	30
13	山鹿市民医療センター	--	--	--	--	5	8	11	24
14	熊本総合病院	--	--	--	--	--	7	13	20
15	熊本労災病院	--	--	--	--	--	10	11	21
	合計	12	30	59	59	58	106	138	462

◆ 特別臨床実習：地域医療

5学年夏から6学年秋までの全15ターム（1タームは3週間。13タームまでは5年次の必須科目。14・15タームは6年次の選択）で実施される特別臨床実習において、当講座は平成26年度から地域医療を提供しています。今年度は県内の14医療機関の協力を得て、7月から10タームを実施し、5年生79人に対し地域医療実習を提供しました。毎ターム最終金曜日の15時より、各施設で実習を行った学生を集めての振り返り会を行いました。また、4月には5学年のガイダンスにて学生向けの説明会を実施しました。



➤ 2019-2020年度 特別臨床実習「地域医療」の受け入れ人数

No.	実習受入先	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	合計
		2019	2019	2019	2019	2019	2019	2019	2019	2020	2020	2020	2020	2020	
		7/1 7/19	8/19 9/6	9/9 9/27	9/30 10/18	10/21 11/8	11/11 11/29	12/2 12/20	1/6 1/24	1/27 2/14	2/17 3/6	4/20 5/15	5/18 6/5	6/8 6/26	
1	阿蘇医療センター	1			1						1			1	4
2	天草地域医療センター	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
3	荒尾市民病院			1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	10
4	小国公立病院	1			1						1			1	4
5	上天草総合病院			1		1				1	1	1	1		6
6	菊池郡市医師会立病院		1		1		1	1		1	1				6
7	御所浦診療所		1		1		1				1			1	5
8	そよう病院	1					1	1				1	1	1	6
9	公立多良木病院	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
10	人吉医療センター	1	1	1	1	1			1	1	1		1		9
11	水俣市立総合医療センター		1	1		1	1	1	1	1		1	1	1	10
12	山鹿市民医療センター	1	1	1	1		1	1	1	1		1	1	1	11
13	熊本総合病院	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
14	熊本労災病院	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		11
	合計	9	8	8	10	8	10	8	8	10	11	9	10	10	119

➤ 診療所・病院のスケジュール例

人吉医療センター					
	月	火	水	木	金
1 週目	<ul style="list-style-type: none"> ➤ オリエンテーション ➤ 総合診療、救急センター ➤ 総合診療 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ キャンサーボード ➤ 小児科 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ プライマリケアカンファレンス ➤ 病棟回診 ➤ 訪問看護 ➤ 訪問診療 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 五木村診療所 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 外科合同カンファレンス ➤ 総合診療 ➤ 救急センター ➤ 訪問診療 ➤ 訪問看護
2 週目	<ul style="list-style-type: none"> ➤ モーニングレクチャー ➤ ドクターズ会、病棟回診 ➤ 総合診療 ➤ 救急センター 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 五木村診療所 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ プライマリケアカンファレンス ➤ 病棟回診 ➤ 病棟回診 ➤ 選択診療科での実習 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ プライマリレクチャー ➤ 病棟回診 ➤ 選択診療科での実習 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 外科合同カンファレンス ➤ 訪問診療
3 週目	<ul style="list-style-type: none"> ➤ モーニングレクチャー ➤ ドクターズ会、病棟回診 ➤ 選択診療科での実習 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 五木村診療所 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ プライマリケアカンファレンス ➤ 病棟回診 ➤ 病棟回診 ➤ 総合診療・化学療法外来 ➤ 訪問看護またはリンパ浮腫外来 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ プライマリレクチャー ➤ 病棟回診 ➤ 選択診療科での実習 ➤ 総合診療・救急センター 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 外科合同カンファレンス ➤ 総合診療・救急センター ➤ まとめ

選択診療科：小児科、産婦人科、代謝内分泌内科（外来）、外科、整形外科、その他希望診療科

御所浦診療所					
	月	火	水	木	金
1週目	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 眼科外来/総合診療外来 ➢ 総合診療外来 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 検査 ➢ 総合診療外来 ➢ 船で横浦へ移動 ➢ 外来 ➢ 外来終了後に訪問診療 ➢ 御所浦島に帰島 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 整形外科外来/総合診療外来 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 検査 ➢ 総合診療外来 ➢ 船で横浦へ移動 ➢ 外来 ➢ 外来終了後に訪問診療 ➢ 御所浦島に帰島 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 検査 ➢ 総合診療外来 ➢ スタッフミーティング ➢ 総合診療外来/訪問診療 ➢ 振り返り・次週の予定確認
2週目	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 眼科外来/総合診療外来 ➢ 総合診療外来 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 検査 ➢ 総合診療外来 ➢ 船で横浦へ移動 ➢ 外来 ➢ 外来終了後に訪問診療 ➢ 御所浦島に帰島 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 整形外科外来/総合診療外来 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 検査 ➢ 総合診療外来 ➢ 船で横浦へ移動 ➢ 外来 ➢ 外来終了後に訪問診療 ➢ 御所浦島に帰島 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 検査 ➢ 総合診療外来 ➢ スタッフミーティング ➢ 総合診療外来/訪問診療 ➢ 振り返り・次週の予定確認
3週目	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 眼科外来/総合診療外来 ➢ 総合診療外来 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 検査 ➢ 総合診療外来 ➢ 船で横浦へ移動 ➢ 外来 ➢ 外来終了後に訪問診療 ➢ 御所浦島に帰島 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 整形外科外来/総合診療外来 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 検査 ➢ 総合診療外来 ➢ 船で横浦へ移動 ➢ 外来 ➢ 外来終了後に訪問診療 ➢ 御所浦島に帰島 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 朝礼 ➢ 検査 ➢ 総合診療外来 ➢ スタッフミーティング ➢ 振り返り（個人で）その後総括

◆ 特別臨床実習：総合診療科

この実習は救急・総合診療部の実習ではなく、地域医療・総合診療実践学寄附講座として独立した「総合診療科」の実習となり、地域医療実習から離れた玉名教育拠点を中心に、3週間の選択実習を行いました。

今年度は、大学病院及び玉名教育拠点の2か所合計18人の実習を提供しました。

公立玉名中央病院					
	月	火	水	木	金
1週目	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修 ➢ 外来レビュー ➢ 病棟研修 ➢ 新患カンファレンス ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ モーニングレクチャー ➢ 訪問看護 ➢ 外来レビュー ➢ 多職種カンファレンス ➢ 病棟回診 ➢ 振り返り ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ プライマリケアレクチャー ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修 ➢ 訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➢ 振り返り ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修 ➢ 外来レビュー/各種講義 ➢ 病棟研修 ➢ 振り返り ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 病棟回診 ➢ 訪問診療 ➢ 病棟研修 ➢ 週間振り返り ➢ 自己研修
2週目	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修 ➢ 外来レビュー ➢ 病棟研修 ➢ 新患カンファレンス ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ モーニングレクチャー ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修 ➢ 外来レビュー ➢ 多職種カンファレンス ➢ 振り返り ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ プライマリケアレクチャー ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修or訪問看護 ➢ 訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➢ 振り返り ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修 ➢ 外来レビュー/各種講義 ➢ 病棟研修 ➢ 振り返り ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 病棟回診 ➢ 訪問診療 ➢ 病棟研修 ➢ 週間振り返り ➢ 自己研修
3週目	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修 ➢ 外来レビュー ➢ 病棟研修 ➢ 新患カンファレンス ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ モーニングレクチャー ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修 ➢ 外来レビュー ➢ 多職種カンファレンス ➢ 振り返り ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ プライマリケアレクチャー ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修 ➢ 訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➢ 振り返り ➢ 自己研修 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 病棟回診 ➢ 外来研修 ➢ 外来レビュー/各種講義 ➢ 病棟研修 ➢ ジャーナルクラブ 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 病棟回診 ➢ 訪問診療 ➢ 週間振り返り ➢ 自己研修

◆ 卒後教育

① 初期臨床研修

熊本病院群初期臨床研修プログラムで総合診療科（大学病院）及び総合診療科（玉名拠点）を選択した初期臨床研修医 13人に対し、総合診療・地域医療に関する教育指導を行いました。

■ 令和元年度初期臨床研修受け入れ人数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	研修受け入れ 総人数
熊本大学病院	1												1
公立玉名中央病院 / 玉名教育拠点						1	2	3	2	3	1		12

② 専門医研修

熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラムの3年目の専攻医1名に対し、教育指導を行いました。熊本大学総合診療専門研修プログラムでは、本年度研修を開始する専攻医はいませんでした。前年度研修を開始した専攻医6名が、県内の公的病院において昨年から引き続き研修を行いました。研修の支援・指導の充実を図るため、テレビ会議システムを活用し、毎月2回、症例検討を遠隔で指導するとともに、専攻医等の研究発表をテレビ会議システムを通じて各病院へ配信しました。また、年4回レジデントデイを開催し、専攻医の研修修了要件であるポートフォリオの作成指導などを行いました。本年度のプログラムへの応募状況は、専攻医が1名採用され、さらに他プログラムから専攻医が1名、熊本大学のプログラムに移籍しました。

➤ 熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラム（Ver.2）

当プログラムは、日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療後期研修プログラムです。

熊本大学医学部附属病院を中心として、熊本県内の様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。大学病院は、県内唯一の高度先進医療、特定機能病院であります。総合診療研修としてはアカデミックなトレーニングが可能です。また各専門診療科では、高度な先進性にも触れながらの研修が可能になっています。地域医療では、政令指定都市でハイボリュームの救急医療を行なう総合病院から、地域中核病院、僻地中核病院～診療所など、バラエティに飛んだ医療施設、地域での研修が、可能になっています。これらの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性の施設で地域に根付いた研修を行う事ができ、本人の希望に応じた研修が可能です。

尚、日本専門医機構による新専門医制度への移行に伴い、令和元年度末に廃止される予定です。

➤ 熊本大学総合診療専門研修プログラム

当プログラムは、日本専門医機構認定の総合診療医後期研修プログラムです。

熊本大学医学部附属病院を中心として、熊本県内全域に広がる様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。

県内全域に広がる多くの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性を持つ施設で、その地域に根付いた研修を行うことができ、本人の希望に応じた研修が可能となっています。また、熊本県医師修学資金貸与の熊本大学卒業生（地域枠入学者を含む）や、熊本県出身の自治医科大卒業生に対し、総合診療専門医としてのキャリア形成支援に寄与することも目指しています。

■ 研修プログラム

プログラム期間は原則として3年間で、総合診療専門研修、必修の領域別研修、その他の領域別研修で構成されます。その他の領域別研修は自分のキャリアに合わせて自由に調整可能です。

総合診療研修	総合診療Ⅰ（診療所・中小病院）	6ヶ月以上	合計 18ヶ月以上
	総合診療Ⅱ（病院総合診療部門）	6ヶ月以上	
領域別研修（必修）	内科	12ヶ月以上	
	小児科	3ヶ月以上	
	救急科	3ヶ月以上	
選択科研修	皮膚科、整形外科、精神科、etc…	希望に応じて	

総合診療研修・必修領域研修機関一覧▼

総合診療Ⅰ	阿蘇医療センター	小国公立病院	内科	人吉医療センター	くまもと森都総合病院	
	河浦病院	栖本病院		熊本総合病院	天草地域医療センター	
	そよう病院	公立多良木病院		熊本赤十字病院	公立玉名中央病院	
	新和病院	沢田内科医院		阿蘇医療センター	天草地域医療センター	
	安成医院	御所浦診療所		人吉医療センター	公立玉名中央病院	
総合診療Ⅱ	椎原診療所	湯島へき地診療所	小児科	熊本大学病院	熊本医療センター	
	熊本大学病院	熊本医療センター		人吉医療センター	公立玉名中央病院	
	公立玉名中央病院	天草地域医療センター		救急科	熊本大学病院	熊本医療センター
	上天草市立総合病院	水俣市立総合医療センター			人吉医療センター	公立玉名中央病院
	人吉医療センター					

■ 研修プログラムのスケジュール例

1. 熊本県医師就学資金貸与医師キャリア形成プログラム

① 総合診療コース（例）

卒後（年目）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
① 勤務先の種別	基幹型臨床研修病院		第1グループ		第2グループ		第2グループ	第2又は第3グループ		後期研修（義務内）	義務年限終了
② 勤務（研修）先医療機関候補	県内の基幹型臨床研修病院 臨床研修		専門研修 ・公立玉名中央病院 ・人吉医療センター ・熊本総合病院 ・天草地域医療センター		・阿蘇医療センター ・小国公立病院 ・そよう病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院 ・河浦病院 ・新和病院 ・栖本病院		第2グループの医療機関	第2又は第3グループの医療機関		県内の医療機関	
③ 義務償還期間（年）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	—	

【備考（総合診療）】

- 第1～3グループ、後期研修（義務内）の順序は入れ替え可能です。
- 第2、3グループの医療機関での勤務期間においては、専門性の向上などを目的として、週1日、勤務先以外の医療機関で研修を行うことが可能です。
- 研修先及び勤務先は、県内の各地域における医師不足状況等を踏まえ、県及び地域医療支援機構において調整した後、熊本県地域医療対策協議会で協議、決定します。

2. 本年度研修修了した専攻医の研修実績

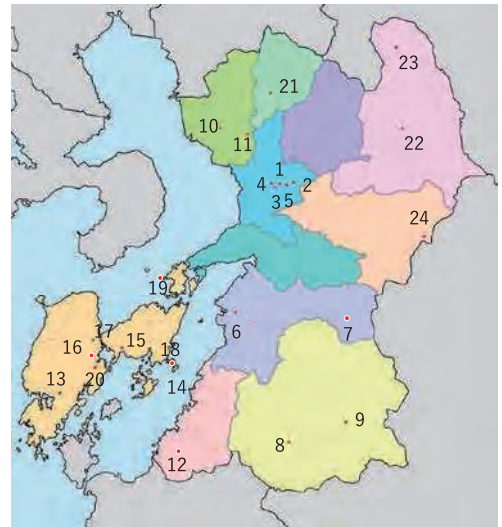
(※ 家庭医療後期研修プログラムVer.2に則ったスケジュール)

総合診療Ⅰ (6ヶ月) 総合診療Ⅱ (6ヶ月) 内科 (12ヶ月) 小児科 (3ヶ月) 救急科 (3ヶ月) 選択科 (合計6ヶ月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	公立玉名中央病院 総合診療Ⅱ (総合Ⅱの研修と並行して週1日の救急研修)											
2年目	公立玉名中央病院 糖代内科	公立玉名中央病院 皮膚科	公立玉名中央病院 整形外科	公立玉名中央病院 循環器内科	公立玉名中央病院 小児科				公立玉名中央病院 消化器内科			
3年目	公立小国病院 総合診療Ⅰ											

■ 研修施設一覧 令和元年度

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 くまもと森都総合病院 | 13 河浦病院 |
| 2 熊本赤十字病院 | 14 御所浦診療所 |
| 3 熊本大学医学部附属病院 | 15 栖本病院 |
| 4 熊本医療センター | 16 天草地域医療センター |
| 5 沢田内科医院 | 17 天草中央総合病院 |
| 6 熊本総合病院 | 18 上天草総合病院 |
| 7 八代市立椎原診療所 | 19 湯島へき地診療所 |
| 8 人吉医療センター | 20 新和病院 |
| 9 公立多良木病院 | 21 山鹿市民医療センター |
| 10 公立玉名中央病院 | 22 阿蘇医療センター |
| 11 安成医院 | 23 小国公立病院 |
| 12 水俣市立総合医療センター | 24 そよう病院 |



■ 研修医の声

● (専攻医3年目 松田 圭史)

今年度は地域医療・総合診療後期研修の3年目の年になりますが、小国公立病院で研修を行いました。小国公立病院での診療はまさに地域医療であり、人手は不足し、設備も十分とは言えず、大変な面もありますが、あるものを駆使し、様々な職種と連携しながら最良の医療を提供しようとするのはやりがいを感じることもありました。また、これまでは病院での診療がメインでしたが、町全体の医療福祉に関する事業（在宅医療サポートセンター、糖尿病啓発イベント、在宅看取りフォーラム、など）の企画・運営に携わることができたことも大きな経験となりました。来年度には家庭医療専門医を取得する予定ですので、今後は専門医として地域医療に貢献できるよう精進していきたいと思えます。

● (専攻医2年目 北村 泰斗)

本年度は、小児科3か月、循環器科3か月、総合内科6か月のメニューでローテート致しました。初期研修医の際にも、小児科・循環器科はローテートしておりますが、その頃は基本的業務の習得に必死で、科ごとの専門的な部分での技術や知識の習得はそれほどであったと思います。専攻医（卒後4年目）であらためてローテートしてみると、少し各科の専門性に目を向ける余裕もでき、自分のめしのたねとして、いろいろのことを吸収できた気が致します。そういう意味で、総合診療医をめざす立場と致しましては、後期研修医として各科を再度ローテートすることに大きな意義を感じます。年々みえる景色も変わってきて、少しずつ俯瞰的にものをみる時間も増えてきた気が致しますが、上級医の先生をみながら自分の医師像を模索し、研修医と接しながら自分の立ち位置を日々確認する毎日です。

● (専攻医2年目 久保崎 順子)

私は、2018年度に熊本大学病院 総合診療専門研修プログラム専攻医となり、プログラムの一環として2018年度は公立玉名中央病院の総合診療科で勤務し、2019年度は他の科での研修を行いました。総合診療科としては、診断が付いた後は各専門科に依頼することも多いため、こういった治療が専門領域でなされているかを知っておくことは、他科とのスムーズな連携をとる上で必要なことだと感じていたため、小児科、内科（循環器、消化器、代謝内科など）、外科（整形外科、皮膚科）と自分が深めたいと思った科を選び、一つの科に出来るだけ長い期間ローテート出来るように予定を組みました。総合診療科での1年を経て改めて他科の診療に携わることは、研修医の時にローテートした時よりも経験や疑問が蓄積していたため、より有意義な勉強期間となりました。とりわけ、外科での研修は印象的でした。というのも、研修医までは内科を志望しており外科は最低限しかローテートせず、特に整形外科や皮膚科の外来、手術は学生以来全く見ていなかったためです。総合診療科に入ると、全ての科に関わりが出来ますが、とくに高齢化のより進んだ地方においては、高齢者の骨折をはじめとした整形外科疾患は絶対に避けて通れないものであるため、より知識を深める必要があると感じていました。今回、整形外科の視点から、診断から手術、術後のリハビリまで全てを見ることができ、治療技術の進歩、手術による回復の素晴らしさを実感するとともに、手術の難しい例や、合併症なども経験し非常に勉強になりました。

これまで2年間、公立玉名中央病院で、総合診療科およびその他の内科、外科の皆様に変えてお世話になりました。2020年度は日赤病院の総合内科に半年、その後は玉東町の安成医院で研修をさせていただきます。新しい環境に不安と楽しみとが入り混じっていますが、いい意味で心の余裕を失わず、医師として人間として成長していきたいと思えます。

● (専攻医2年目 空田 健一)

総合診療科の専攻医2年目のプログラムとして、天草地域医療センターに来て住んでみると想像していた以上に働く環境も自然の環境もよいところでした。各先生方より適切なご指導をいただくことができ、不安を感じる場面は少なくなってきました。温泉は玉名のほうがよかったです。天草の食事と海をとて気に入ったので、今後は天草地域で暮らしていきたいです。今後も皆さまに信頼していただける医師を目指し、しっかりと勉強していきます。

今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

● (専攻医2年目 永田 洋介)

今年度は専攻医2年目として、そよう病院総合診療科の研修を行いました。救急外来から慢性疾患の外来管理、訪問診療、時には高次医療機関との連携を取りながら専門性の高い治療を継続したりと幅広い経験をしました。地域で暮らす方々の健康を管理することはまさに総合診療そのもので、患者さんの社会的背景も含めて多面的に考えることの重要性を改めて学びました。昨年に引き続きテレビ会議システムを利用し診療上の疑問点を解決したり、カンファレンスを通じて診療精度を高めたりと、十分なサポートの元仕事に従事することが出来ました。また、研修日を利用し、上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡の手技を身につけ地域医療に従事しながらも高度医療や各科専門医による治療も同時に学ぶことが出来ました。今後も引き続き日々成長出来るように充実した研修を続けたいと思います。

● (専攻医2年目 早川 香菜美)

専攻医2年目になり、現在は天草の河浦病院で勤務しています。外来、病棟、訪問診療と多岐にわたり診療に携わらせていただいています。

今特に力を入れていることは、保健・福祉との連携事業です。2019年4月に保健・福祉との連携事業を立ち上げ、運営委員の一人として関わらせていただいています。それぞれの事業所がどのような仕事をしているのか、どんな人たちが働いているのかから始め、互いの得意分野を生かしながら協力して河浦町をより良い町にするための活動を行っています。また、天草市でも多職種共同のボランティア団体を立ち上げ、そちらにも初期メンバーとして関わらせていただいています。どちらの活動もまだ活動を始めたばかりで手探り状態ですが、今後もこれらの事業に携わっていきたくと思っています。

まだまだ未熟であり、他先生方やコメディカルの方、地域住民の方々に支えられながら日々診療を行っています。そんな方々に恩返しができるように自分にできる限りのことをやっていきたいと思っています。

● (専攻医2年目 平賀 円)

2019年1月是人吉医療センター、2月以降は公立玉名中央病院でお世話になりました。病院によって特色や地域性は違うのは当然ですが、救急外来にいとそういった違いを肌で感じる事ができ、玉名の夜間はややコンビニ受診が多い印象でした。初めの7ヶ月間を総合診療科、その後整形外科、皮膚科、循環器内科と研修させていただきました。玉名には総合診療科を回る研修医が多く、今振り返れば、彼ら彼女らに「教える」ということが今年一番の課題だったかと想います。4月には腰椎穿刺の手技経験が全く足りていないことをO山先生に表情だけでばれてしまい、緊張の中穿刺を行ったことは良い思い出です。そんな玉名中央病院では、後輩に教えられるように自らが勉強する大事さを学びました。

また、定期的に飯塚病院に赴き、Resident As Teachers (RATs) という勉強会に参加させていただいたことも大きな糧となりました。研修医へのフィードバックや効率的なレクチャーなど理論的に教育というものを学ぶ機会になりましたし、専攻医らの意識の高さも感じ取ることができました。

PC学会では「学生の地域臨床実習」をテーマにポスター発表しましたが、RATsも含めて、今後もそのようなテーマを自分なりに勉強していきたいなと思う今日この頃です。

来年度もよろしくお願いいたします。(別件ですが、8月に第一子が誕生したこともここでご報告させていただきます。)

IV 指導医養成

▶ 熊本大学総合診療指導医養成プログラム

■ プログラムの概要

このプログラムは、熊本大学が提供する独自の指導医養成プログラムになります。大学という教育・研究機関が提供するプログラムである特色を活かして、個別のニーズに合わせて総合診療・家庭医療の臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも積むことができることが特徴です。内容は専門医を取得してから最初の専門医更新までの5年間の教育に特化しており、主に卒後5年目から卒後12年目の若手医師を対象にしたプログラムです。更には、医学生から専攻医までの様々な世代への教育の経験ができ、連携機関も県内多数に存在するため、多彩な診療能力をニーズに応じて学ぶことができます。

また、指導医の資格を取得後の様々なキャリアに即し、特にSpecial Interestを深められるように自由選択性の研修を2年ほど取り入れています。Special Interestの領域については、各人の興味のある分野をさらに伸ばせるよう熊本県内の医療機関で研修が開始できるように熊本大学が全面的にバックアップしていきます。





■ プログラムの対象者

1. 専門医機構における総合診療研修の指導医条件に該当する、または平成31年度から該当となる予定の方
2. 卒後5年目～卒後12年目の方

■ 研修期間（5年間）

1. 指導医養成基盤研修（3年ほど）
 - ・ 総合診療研修施設（病院総合医・家庭医）での指導医研修
 - ・ 1年程度の大学教員（医員待遇）研修
2. 自由選択制研修（2年ほど）
 - ・ 個別のニーズに合わせて選択式の研修
 - ・ Special Interest研修
例）各種専門研修、開業・開業準備、留学等
 - 各専門研修には、例えば、救急や緩和医療、在宅医療、などを準備しています。

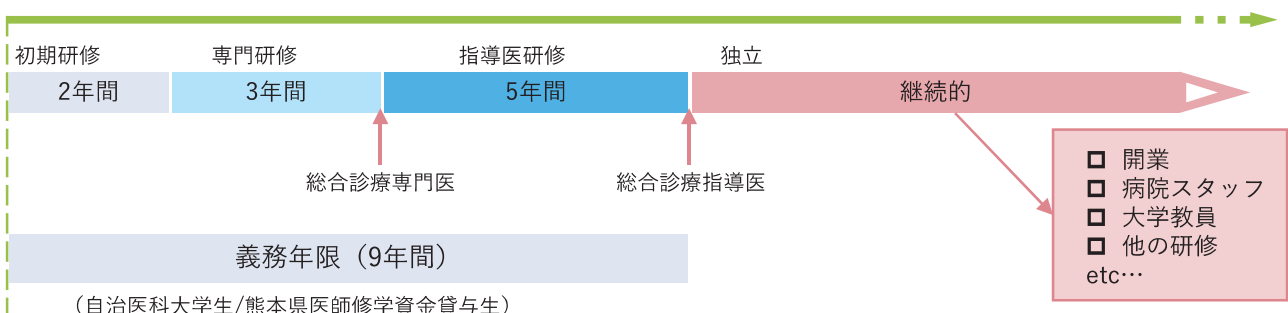
■ 一般目標

 臨床能力	 教育能力
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理論の実践と深化 ・ 包括的診療能力の向上 ・ ニーズに応じた経験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育理論の実践 ・ カリキュラムの作成
 管理・運営	 研究
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療科の管理・運営 ・ 専攻医研修プログラムの管理・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究プロトコルの立案 ・ 研究論文執筆

■ 研修後のキャリアについて

指導医養成プログラムでは、世界水準の質の高い指導医を1つのゴールとして、総合診療の指導医習得および、家庭医・病院総合医としてのBrushUP、Special Interestの選択（専門医機構の今後の動向に合わせ検討）など、有意義な経験を積んでいただければと思っています。もちろん、指導医になることがゴールではなく、指導医習得後も更なるキャリア形成の機会を提供したくと思っています。具体的には、指導医として地域医療従事、国内外の留学、大学院への進学、大学教員、開業（新規・継承）などがあると考えています。

また、このプログラムは、県の医師就学資金貸与制度や自治医大の卒後研修など、9年間の義務年限がある方々にとっても義務の研修を実施しながら、キャリア形成が可能で、義務終了後の次のキャリアにも結びつけることができる研修であるのも特徴です。



講演会

主催

熊本臨床研究ワークショップ
2019年5月31日金曜～6月1日土曜
兵庫医科大学臨床疫学 教授 森本 剛 先生



熊本臨床研究ワークショップ

このワークショップのゴール
臨床研究の計画書の作成からデータマネジメント、統計解析、報告までの一連の流れを講師やチューターの支援のもとで学ぶ機会があります。
様々な専門領域の臨床研究を深く学んだ医師が研究デザインから統計解析までの実践と学習を一体化して進めることで、チームベースでの臨床研究は決して進められないような実践的知識を得ることが出来ます。

日時 2019/5/31(金) 9:00 → 2019/6/1(土) 12:00
来二泊二日のワークショップです。

場所 熊本大学病院 山崎記念館1F 研修ホール

講師 森本 剛 先生 兵庫医科大学臨床疫学教授
臨床疫学としての視点と実践した研究デザインや統計解析、論文執筆の
人気は高く、全国各地で実践的な臨床研究教育をしています。

定員 20名 応募者多数の場合は、抽選する場合がございます。ご了承ください。

参加費 無料 後援費代等として別途5,000円を予定しております。

参加資格 臨床研究に関わる医師

締め切り 2019/4/21
※下記QRコードもしくはURL先の申し込みフォームよりお申し込みください。

持ち物
・ ノートパソコン
・ 最新標準の統計ソフトウェアをインストールします。
・ ACアダプターやマウス、イヤホン等の作業となります。

これまでの参加者
✓ 臨床研究に興味があるけどどうやっていいかわからない
✓ 自己流で臨床研究をやったけど正しいかわからない
✓ これまで臨床研究論文を書いたがなかなか掲載されない
✓ 臨床研究をやりたが、部下・後輩に教えるようにできない

主催 熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

熊本大学臨床研究ワークショップ申し込みフォーム
URL: <https://forms.gle/AMHJLUGmURN3h8e5> 詳細はプログラムの詳細があります。

プログラムスケジュール

2019/5/31 (金)				
時間	形式	内容	所要時間	
9:10 9:40	-	受付	0:30	
9:40 10:00	-	開会式・オリエンテーション	0:20	
10:00 10:40	講義I	臨床研究デザイン	0:40	
10:40 11:50	グループワークI	臨床研究計画 全体報告	1:10	
11:50 12:10	ハンズオンI	統計解析ソフト導入	0:20	
12:10 13:10	-	昼食	1:00	
13:10 13:40	講義II	統計解析の原則・記述統計	0:30	
13:40 14:10	ハンズオンII	記述統計実習	0:30	
14:10 14:40	講義III	単変量解析の構造	0:30	
14:40 15:10	ハンズオンIII	単変量解析実習	0:30	
15:10 15:30	-	休憩	0:20	
15:30 16:30	グループワークII	研究計画書作成	3:00	
16:30 20:30	-	情報交換会・夕食	3:00	

2019/6/1 (土)				
時間	形式	内容	所要時間	
9:00 9:30	講義IV	統計解析レビュー	0:30	
9:30 10:15	グループワークIII	データ解析実習・図表作成	0:45	
10:15 10:30	-	休憩	0:15	
10:30 11:45	発表と討論	研究計画書・解析結果報告 各グループ15分発表 発表表についてのディスカッション10分	1:15	
11:45 12:00	プレナリー	ラップアップ・閉会式・受講証授与	0:15	

地域に埋もれている重要な情報から臨床研究を介してエビデンスを構築することで、地域医療に従事しながらキャリア形成に繋げ、さらには医師就学資金貸与医師や自治医科大卒医師の県内定着を促すため、5月31日(金)～6月1日(土)に17人の参加者を得て、左記のとおり熊本大学病院山崎記念館で熊本臨床研究ワークショップを開催しました。

主催 第16回地域医療・総合診療グランドラウンド

「ニュージーランド臨床留学を通して見えたもの～ニュージーランドのGPとの関わり～」
2019年9月12日木曜 18:00～19:00

第16回 地域医療・総合診療グランドラウンド

ニュージーランド臨床留学を通して見えたもの
～ニュージーランドのGPとの関わり～

今回、ニュージーランド(NZ)で心臓血管外科医として活躍する月岡祐介先生はNZの地域医療や同国の総合診療医(GP: General Practitioner)について、彼等が現場でどのように活躍/キャリア形成しているのか、そして彼らがどのように心臓血管外科医と関わっているのか、現場の医師の視点での声から学ぶ。

主催 熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座
日時 2019年9月12日(木) 18:00～19:00
場所 熊本大学病院 山崎記念館
対象 海外の地域医療に興味のある学生、
「総合診療専門医研修プログラム」研修中の医師、協力指導医、
「初期臨床研修プログラム」研修中の初期研修医、熊本大学病院 医師等
講師 月岡 祐介 先生
元オークランドシティ病院 心臓胸部外科 臨床フェロー (研修医総括責任者)

問い合わせ先 熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座
TEL: 099-273-5473 E-mail: chikei@yoz.jp / tomokazu@kumamoto-u.ac.jp

元オークランドシティ病院
心臓胸部外科 臨床フェロー
月岡 祐介 先生



第16回地域医療・総合診療グランドラウンドのテーマは、「ニュージーランド臨床留学を通して見えたもの--ニュージーランドのGPとの関り--」です。

2019年9月12日(木) 18時～ 熊本大学病院の山崎記念館にて開催いたしました。

元オークランドシティ病院 心臓胸部外科 臨床フェローの月岡祐介先生に、ニュージーランドでのGP (General Practitioner) の役割や必要性、海外で医師として働くために必要なことなどをご講演いただきました。

また今回は初の試みで、セミナーの様子をTV会議システムを使って、公立玉名中央病院、天草地域医療センター、阿蘇医療センターへ中継いたしました。質疑応答では各施設から質問をいただき、活発な意見交換が行われました。



その他

表彰

松井教授、谷口准教授、高柳助教が、熊本大学医学部医学科における特別臨床実習(クリニカル・クラークシップ)での地域医療の学修促進と学修成果獲得へ多大な貢献をしたということで、令和元年度熊本大学教育活動において学長より表彰されました。